

昭和
19
年

0

0

24. 0

E-0042

0006



まへがき

管區ニ於ケル食糧ノ需給ハ軍政ノ基底ヲ爲ス重要案件ナル處今日迄中
央御當局ノ示サレタル特別ノ支援配慮ニ對シテハ現地當局者トシテ誠
ニ感激措ク能ハサルモノアリ將來ニ於テモ一層ノ御高臨ヲ賜ハリタキ
希望ナル處一部ニ於テ

一 管區ノ人口疎數不徹底ナラスヤ

ニ 管區ニ於ケル食糧ノ需給ハ人口中軍政ニ直接協力シアルモノノミ
ヲ對象トシテ施策スルヲ可トセスヤ

等ノ意見アリ

本稿ハ之等意見ニ答フル意味ニ於テ起草シタルモノニシテ推蔽不充分
蕪雜ノ憾ナキニ非サルモ現地事情充分御諒察ノ上今後一層ノ御援助ヲ

仰クヲ得ハ幸甚之ニ過クルモノナキ次第ナリ

昭和十九年一月二十日

香港占領地總督部民治部長

市 來 吉 至



第一 來年度人口疎散ノ最大目標

(一) 昭和十九年中人口疎散ノ目標

管區内ニ於テ抱擁スヘキ最大人口ヲ七〇万人トシ十八年十二月末現在人口八四八、四五八八(中國人八三四、五九〇)ニ對比シ本年内一五〇、〇〇〇人ヲ管區外ニ疎散セントス

(二) 十九年ニ於ケル具体的方策

彙ニ二十三軍運輸部ヲ通シ十九年中ノ疎散ニ關シ廣東省政府ト交渉中ノ處協定成立セルヲ以テ別紙香督令第十三號ヲ以テ年内一〇万人ヲ懲滯ニ依リ疎散セシメントス
尙右ノ外自費歸郷及強制疎散ニ依リ約五万合計十五万人ノ疎散實施ニ依リ標記目標ヲ達成セントス

(三) 過去ニ於ケル香港人口疎散ノ實績

(イ) 軍政廳ニ依ルモノ(占領後十七年二月上旬迄) 五五、〇〇〇人

(ロ) 總督部ニ依ルモノ(十七年二月以降)

昭和十七年	三五、〇〇〇人
全十八年	八六、三一〇人
小計	四三、九三一人
以上合計	九九、三三六人

右數字ノ示ス如ク香港撤定以來二年余ノ間歸郷證明書ヲ發給シテ確實ニ離香シタル者ノ總計ハ實ニ約百万ノ多數ニ達シアリ

(四) 今後ニ於ケル人口疎散ノ見透シト其ノ困難性ニ就テ

前表ニ明カナル如ク疎散ノ實績ハ逐年低下シアルハ事實ナリ



管區カ 皇化ノ下治安確立シ民生亦安定スルニ等ト歸郷出足
ハ鈍化シアルモ右ハ管區ニ於ケル施政ノ影響ニ由ルト云フカ如キ
皮相ノモノニ非ス左記列舉ノ如キ疎散ノ實^大阻ム內的外的幾多ノ
原因錯綜シテ存スルニ依ルモノナリ

(イ) 彼疎散地域官憲トノ協定取付ノ困難

管區住民ノ疎散先ハ主トシテ廣東省內和平地區ナル處之等ノ地
帯ニ於テモ人口ハ極當稠密ニシテ戰時下物資就中食糧ノ窮乏化
ハ大尙小異ニシテ輒近ニ於ケル物價ノ暴騰ハ其ノ生活難ヲ招來
シ治安亦惡化ノ傾向アリ。從テ廣東省政府若ハ第二十三軍現地
守備部隊ト雖モ香港ヨリスル人口ノ多量排出疎散ハ其ノ施政乃
至警備上ノ支障ヲコソ來セ決シテ之ヲ歡迎スル所ニ非ス現在ハ

專ラ大局的見地ニ立脚シ相互理解ノ下ニ香港疎散民ノ湯陸地點
ハ太平、江門ノ二地點ニ、迴避地點ハ深圳ノ一嶺所ニ限定引受
ケラレアル現状ナリ

香港ノ希望ヲ以テスレハ疎散ヲ容易ナラシムル爲ニハ周邊地帯
内彼等ノ希望スル地域ニ之ヲ送出スラ最モ捷徑トスルモ示々答
認ノ域ニ達シアラス勢ヒ交通、道路上ノ制約ヲ受クルノ已ムナ
キ現況ニ在ルヲ遺憾トス

一昨守七年七月恰モ管區內未整頓ノ時期ニ乘シ富部カ一方の大
量疎散ノ實施ヲ計畫シタルニ際シ第二十三軍、廣東省方面ノ反
對ヲ受ケ一時之ヲ中止スルノ止ムナキニ立脚レルコト記憶ニ新
ナル所ニシテ疎散ハ一方的ニ簡單ニ實施シ得ヌ措手方アル相對

的業務ナルコトニ意ヲ留ムルノ要アリ

(ロ) 疎散可能ノ者ハ概ネ之ヲ排出シタリト見ルヲ得ヘキコト

惟フニ疎散ハ單ナル棄民ニ非ス對象カ人間タル以上爲シ得ル限
リ疎散後ノ生活ヲモ考慮スルノ要アルヲ以テ其ノ工作ハ歸郷ヲ
建前ト爲シアリ

然ルニ前述ノ如ク既ニ百万人ヲ排出シ現在殘留シアル者ハ既ニ
香港居住長期ニ互ル所謂第二世香港人ニシテ歸郷センニモ郷里
ナク郷里アルモ親戚故舊ノ縁邊ナク況ンヤ彼ヲ迎フル茅屋、耕
地ノ存スルナク勢ヒ山間ヲ放浪シテ彼等ノ目前ニ待ツモノハ餓
死アルノミ這般ノ情勢ヲ知悉スル現住居民カ其ノ離港ヲ濫ル亦
事理ナキニ非ルナリ

(ハ) 現住居民ハ歸郷勞工ニ從事スル適格者ニ非ザルコト

管區ハ純然タル消費都市ニシテ此處ニ數十年ヲ生活シタル彼等
ノ多クハ商業、貿易従業員若ハ單純工員ニシテ農村勞働ノ經驗
ナク折角廣東省政府ニ於テ歸農生産運動ヲ展開シツツアルモ之
カ適格者鮮ク況ンヤ轉業斡旋等ニ付我々國ニ於ケルカ如キ完璧
ノ施策ハ現地ニ於テハ望ムヘクモアラサルナリ

(ニ) 疎散ヲ阻塞スル幾多消極的事情ノ存スルコト

現下歸郷ヲ希望シアル中流程度ノ居民ニ關シテハ疎散セント欲
スルモ交通機關ナク困難シアリト啣チアルコト其ノ一ナリ、福
建、上海方面歸郷ヲ希望スル者ニ於テ特ニ然リ(但シ上海、福
建方面帝國官憲ハ香港疎散民ノ送出ヲ謝絶シアリ參考迄)

所有ノ家屋ヲ賣却移讓等處分セント欲スルモ其ノ容易ナラザル
コト其ノ二ナリ

所有スル家財、器具類ノ處理ニ付テモ其ノ携行ハ著シク制限セ
ラレ賣却移讓等ニモ困惑シアルコト其ノ三ナリ

携帶通貨ニ制限セラレ疎散後忽チニシテ生計ニ窮スルヲ憂慮シ
アルコト其ノ四ナリ、蓋シ儲備券ノ携帶搬出ハ軍票二〇〇圓相

當額ニ制限セラレ到著地向送金爲替ノ取組ミモ亦理屈ハ扱テ措
キ實行困難ナルノミナラス敵地區ニ赴ク者ニ關シ所要ノ法幣ヲ

取得スルコトハ極メテ困難ナリ
(ホ)民心ノ把握、民治諸施策トノ矛盾撞着アルコト
占領直後戦火未タ全ク收マラザル時期ニ於ケルモノト軍政進行

二年ヲ閱シ諸事概ネ整頓シタル今日ニ於ケル疎散トハ其ノ工業
程度ニ於テ自ラ差異ナカルヘカラス

即チ民心ヲ強力ニ把握シ民治諸施策ヲ積極的ニ展開シテ以テ
皇國ヲ大ニ展フルノ要アル今日口焦燥性急之ト逆行スル施策ヲ執

リ朝ニ一石ヲ積ミ夕ニ一石ヲ崩スカ如キハ避ケサルヘカラス
或ハ曰ク民心ノ把握ハ軍政ニ直接且積極的ニ協力シアル一定範

圍ノ民衆ヘ或ハ四〇万ト指稱スルヲ對象トスレハ足レリトセン
ト。然レトモ現地ニ直面シ今遽カニ斯ノ論ニ賛同スル能ハス

惟フニ社會集團ニ於テ遊離隔絶セラレタル民心思想ナルモノハ
存在シ得スト思考ス。假ニ一步ヲ譲リ斯ルモノ存ストスルモノ之

ニ如何ナル意義ト價值トヲ附與シ得ヘキヤ。論者ノ所謂軍政協

力者ト雖モ爾餘ノ民衆集團ヨリ決シテ遊離隔絶シタル存在ニ非
ス 親戚縁者トシテ或ハ交友エ或ハ思想上何等カノ連絡關係ヲ
有セザルモノナシト云フモ過言ニ非ヌ
然レハ若シ所謂軍政協力者カ眼前ニ爾餘ノ集團民衆ノ流離荒亡
ヲ視、其ノ苦惱受難ヲ訴ヘラレタル場合彼等ハ之ヲ他人事トシ
テ決シテ雲煙過眼視スルヲ得ザルナリ
況ンヤ居住華民ハ衆愚ニ非ス豊富ナル感情ヲ藏シ民族意識亦存
スヘシ 斯ノ集團感情ヲ無視シ民族意識ヨリ眼ヲ掩フカ如キハ
正常ナル政治ト稱シ難シ

(へ) 對支新政策トノ調整

東亞解放ノ聖戰下日華ノ提携カ東亞民族結集ノ先決要件タルニ

鑑ミ爰ニ對支新政策廟議決定セラレタル所アリ 而シテ香港ノ
地ハ其ノ人的構成ノ見地ニ於テ新政策ノ具現促進上最モ便宜多
キ地タルベキハ衆人ノ見ル所ナル處疎散ノ一方的強行カ漸クニ
シテ覺醒セントシアル支那ヲシテ更ニ我カ眞意ヲ疑ハシムルニ
到ル懸念無シト云ヒ難シ

(ト) 敵側ニ反對宣傳ノ口實ヲ與フル懸念アルコト

疎散ハモト民衆ノ好ム所ニ非ス唯軍政遂行ノ觀點ヨリ已ムヲ得
ヌ實施シアルナリ 而シテ其ノ工作ノ過程ニ於テ時ニ人道上ノ
見地上遲疑セシメラルル事柄ナシトセヌ 例ヘハ疎散船上ニ於
テ飢餓ノ餘リ生殘者ノ肉ヲ喰ウカ如キ或ハ揚陸ニ際シ海邊ニ老
若婦女子カ逐ヒタテラレテ眼前海中ニ覆沒溺死スルカ如キ事例

往々ナリ、又幸ニシテ上陸シタリトスルモ忽チ食ニ窮シ其ノ二
三割ハ餓死シアル實情ナリ
之ニ對シ敵側ハ執リテ以テ好機ナリトシテ對日惡宣傳ノ資料ト
セラルルハ忍ビ難キ所ニシテ敵側ニ接近セル管區ハ近クハ惠陽
韶關、桂林方面ヨリ遠クハ重慶、桑港方面ヨリ「日本ノ欺瞞政
策ニ乗セラルル勿レ」ノ電波ヲ管區ニ送リアルコトニ想到セサ
ルヘカラス

以上總説ノ通り疎散ノ現段階ニ於テハ局外者ノ想察シ得サル幾多ノ
困難存スルモ一面苛烈深刻ナル現戦局カ、皇國ノ運命ヲ左右スルモ
ノナルニ思フ致シ万難ヲ排シ刻番精勵所期ノ目標達成ニ邁進シアル
コトヲ諒得セラレタシ。

第二 現行配給米制度ノ全面的改正（要スレハ
軍政協力者ノミニ限定スル案）

(一) 現行配給制度

現行米配給制度ハ昭和七年三月十五日ヨリ開始シ二十八區
役所備付ノ戸口簿ヲ基礎トシ切符ヲ發給シ概ネ左記ノ標準ニ依リ
食米ヲ配給シアリ（一斤ハ四合ノ計算）

普通人	一日一人	〇、四斤（一合六勺）
勞務者	同	〇、六斤（二合四勺）乃至二斤（四合）
邦人	同	〇、六斤（二合四勺）

抑々食糧ノ自給力乏シキ管區内ニ於テ食米ノ配給ハ民生ノ根柢ヲ
爲ス重要案件ナルニ鑑ミ夙ニ前記ノ如キ配給制度ヲ施行シアリ。
而シテ管區治安ノ確立、民生ノ安定モ偏ニ之ニ依存スト云フモ過

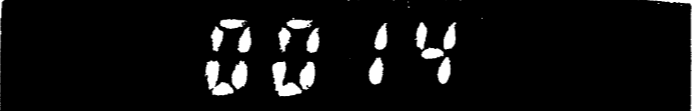
言ニ非サルヲ以テ之カ變改ニ當リテハ慎重ナル檢討ヲ要スルモノ
アリ。然レトモ戰勝ヲ舉クルコトカ絶對ノ條件ナルハ固ヨリニシ
テ戰局ノ苛烈化ニ伴ヒ海上交還ハ一層制限サルヘク又食糧補給地
域ノ經濟並ニ政治情勢ノ變化等ニモ即應シ得ル如ク管區食米配給
ニ關シテハ臨機ノ處理必要ナルヲ以テ何時如何ナル專斷ニモ對應
シ得ル如ク應變ノ措置ヲ講スヘキハ勿論ナリ。

(二) 現行配給米制度變改ノ是非ハ專斷協力者ノミニ限定スルノ可否ハ
前述ノ通り配給米制度ノ變改ニ付テハ慎重考慮中ナルカ之ヲ簡單
ニ改正シ難キ主ナル理由ニ次ノ如シ

(イ) 管區食糧事情ノ差異性

香港ニ於テ食糧ノ生産ナキコト廣東市ニ於テモ同様ナリト雖モ
兩者事情ハ必スシモ同一ニ非ス。即チ廣東市ノ如キ豐富ナル食
糧生産地帯ニ圍繞セラレホ、雜穀ノ搬入ハ自由ニシテ一定費價
ヲ支拂フニ依リ之ヲ購入シ得ルヲ常態トスルニ反シ香港ニ於ケ
ル米、雜穀ノ在貨ハ不定ニシテ相當高價ヲ支拂ヒテ辛シテ之ヲ
獲得シ得ルニ止マルヘ現在市販米一斤二圓七十錢乃至三圓ノ蓋
シ廣東省ニ於テハ米、雜穀ノ省外ハ香港ニ省外ナリ。搬出ヲ禁
止シアリ當局直接取得ノ聯合ハ格別ナルモ民間ノ取得搬入ハ所
謂密輸ニ依ルノ外ナキ現況ナリヘ之カ改善ニ付廣東省ト接渉中
ナリ。

斯ル情勢ノ下ニ一部ノ配給米ヲ停止シタリトセンカ彼等ハ何ニ
依リテ米ヲ獲其ノ生命ヲ維持シ得ヘキヤ斯ル政策ハ誠ニ危險ニ



シテ若シ一步ヲ誤ランカ軍政ニケ年ノ成果ヲ水泡ニ歸セシムル
ノ懼レアリ

(ロ) 軍政協力者ノ限界ヲ定ムルコト容易ナラス

何ヲ以テ軍政協力者ト見做スヘキヤ直接ノ協力者即チ軍政機關
内ニ服務スル者及各種有用勞務者等ヲ指稱スルナランモ彼等ヲ
シテ眞ニ安シテ働カシムル爲ニハ其ノ家族モ包含セシメザルヘ
カラス而シテ管區内配米制度ニ於テ其ノ家族ハ狭ク日本式ノ家
族ニ解スヘキヤ將又支那式ニ一家眷族ヲモ包含セシムヘキヤ
々ノ基準ニ依リテハ斷シ難ク若シ機械的ノ觀念的ニ其ノ限界ヲ
定メ之ヲ實施ニ移シタリトセンカ彼等ノ不安動搖ハ深刻ナルモ
ノアルヘシ

(ハ) 限定配給ハ下級行政機關ヲ麻痺セシメ戸口制度ノ根柢ヲ覆ス恐
レアリ

管區住民ノ戸口ヲ明カニスルハ諸政ノ根元ナルニ鑑ミ十七年十
月一齊ニ戸口調査ヲ實施シ管區内ニ十八區役所ニ戸口簿ヲ設キ
越ヘテキ八年五月第一回戸口調査ヲ施行シテ之カ準備ヲ計リ
ノ配給ハ右戸口簿ヲ基準トシ米券ハ區役所ヲシテ發給セシメ
ル處一發給ヲ停止シタル場合ニ於テハ新角晋心整備シタル戸
口簿ノ效用ヲ失ハシメ之カ管守ニ當ル區役所ノ存在亦無力化ス
ルニ至ルヘシ

之ヲ要スルニ現下管區民政ハ實ニ米配給制度ヲ樞軸トシテ運營
シアリト云フモ過言ニ非ス若シ其ノ中心ヲ失フニ至ランカ民政

ノ動搖就中地區事務所、區役所等ノ地方第一線行政機關ハ其ノ機能ノ大半ヲ失フニ至ル懸念アリ

(三) 所謂軍政協力者ノ意義ニ就テ、

管區内民治ノ根本方針ハ萬民ヲシテ其ノ籍ニ安ンセシムル聖旨ヲ奉體シ管區住民ノ大部分ヲ占ムル中國人ヲ其ノ中該對象トシ彼等ヲシテ日華提携ノ眞諦ヲ認識諒得セシメ以テ極力之ヲ大東亞戰爭完遂ノ懸制ニ調協力セシムルニ在リ幸ニシテ軍政治下ニ年我カ公正ナル眞意ヲ理解シ遂次我ニ同調協力ノ誠意ヲ示シアルハ喜ヒニ堪ヘサル所ナリ固ヨリ右任八十三萬ノ華民ハ千差萬別ニシテ假令無爲徒食ノ者ト雖モ機會タニ與ヘラルレハ進ンテ協力的業務ニ從事センコトヲ志同シアルハ疑フ餘地ナク唯纔カニ現下經

濟情勢ノ之ヲ許ササルニ依リヒムコトナクシテ市井ニ彷徨シアルニ外ナラス積極的ニ敵意反抗ヲ示スカ如キモノ認メラレス

然ルニ一朝限定軍給ノ實施セラレタリトセンカ所謂協力者ヲ除ク大多數民衆ハ忽チ路頭ニ迷ヒ市井ノ餓孚ト化スヘク斯ノ如クンハ我ヨリ招キテ新シキ敵ヲ造成シ我ヲ呪咀スルニ至ルヤ必セリ。即チ限定軍給ニ依リ一人ノ味方ヲ作り得タリトスルモ反面忽チニシテ百人ノ新シキ敵ヲ生シタリトセンカ其ノ功罪何レソ深慮ヲ要スヘシ

(ホ) 日支新政策ニ暗翳ヲ投スルノ恐レアリ

今次大戦ハ大東亞解放ノ聖戰ニシテ東亞ノ德民族ノ大同結集ハ之カ完勝ノ絶對要件ナリ苛烈深刻ナル今次大戦カ大和民族獨力ヲ以

テ捷チ得ヘシト爲スハ淺慮ニシテ弱八紘一字ノ理念ノ下東亞各民
族ハ渾然一體トナリ米英勢力ノ驅逐ヲ堅ク期セサルヘカラス
斯ノ理念ノ下管區居住ノ八十萬華民ハ舉ケテ以テ我等ノ同志トナ
シ之ヲ驅リテ我ニ同調セシメサルヘカラス日華新政策ハ空理ニ非
ス大東亞宣言ハ空論ニ非ス其ノ具現ハ急速ナルヲ要スルト共ニ之
カ實行ハ直截簡明ナラサルヘカラス仍ツテ之ノ目的ノ爲ニモ食糧
供給ニ關シ極力中央依存度ヲ輕減シ現地ハ死力ヲ瘁シテ自給自營
ヲ計リ以テ居住華民ノ寧福ヲ顧念シアリ

管區軍政ノ局ニ衝ル者ハ敍上ノ信念ノ下ニ行動シツツアモ然ルニ
今卒然トシテ一部居民ヲ別離シ彼等ヲ同調ヨリ離反ニ驅リ立テン
トスルカ如キハ誠ニ忍ヒ難キ所タルト共ニ一般華民ノ不信ヲ招ク
ヤ必然ナリ

今一猫額大ノ香港地區ニ於テスラ東亞共榮ノ實舉ケ得ストモンカ
焉ノ之ヲ大東亞ニ及ホシ何時ノ日カ其ノ大理想ヲ展ヘ得ヘケンヤ
(一) 統治ノ日本的性格ヲ昏迷ナラシムル恐レアリ

英帝國主義ノ下百年ノ間沈湎シアリタル居住華民ハ今刮目シテ新
ナル我カ日本ノ施政ヲ眺メツツアリ、創始今ニシテ其ノ本ヲ正サ
サレハ不信ヲ招キ後圖ヲ害スル所恐ルヘキモノアリ政治ノ眞諦ハ
信ヲ得ルニ在リ實ク所一ノ識タニアラバ民ハ招カスシテ信倚シ來
ルヘシ

仍ツテ帝國ハ香港ヲ自國ノ爲ニノミ領有シ其ノ利益ヲ擧ケテ獨占
セントスルモノニ非サル所以ハ今日ニ於テ之ヲ克ク諒得セシメテ

ルヘカラス斯クシテ始メテ彼等ハ愁眉ヲ開キ帝國統治ノ性格ヲ認
識把握スルニ至ルヘシ然ルニ施政未タ二年ヲ出テスシテ同仁一視
ヲ變改シ大部ノ居民ニ「我不關焉」ノ態度ヲ執リタリトセンカ彼
等ノ驚倒ハ想察ニ難カラス而シテ日本ノ標榜スル所亦表裏半シ英
米ノ夫ト隔ルコト遠カラスト億斷セシムル體レナシトセス由來強
キヲ挫キ弱キヲ助クルハ我國ノ笑風ニシテ物ノ哀レヲ識ルハ古武
士ノ風懷ナリ今眼前ニ無辜ノ浪氏溺レントスルヲ見之ヲ抱キ上ク
ルノ努力ヲ齎サヌ却ツテ之ヲ突放セントスルカ如キ處理ハ著シク
日本の性格ヲ昏迷ナラシルモノト云ハサルヘカラス





稻増産實施要綱案

(昭一九二八)

第一方 針

昭和十九年度農産物増産對策ニ即應シ新規計畫トシテ水田地帯ニ附隨スル水田荒廢地及低濕地ノ利用ニ依ルテ稻ノ増産ヲ獎勵シ以テ水田増産ニ於ケル民食ノ安定ヲ圖リ米穀ノ増産及出廻リノ促進ニ遺憾無キヲ期ス

第二要 領

- 一、稻ノ増産獎勵ハ該作物ノ特性或自然の條件ニ鑑ミ差當リ水田栽培地帯ヲ對照トシテ之ヲ獎勵ヲ爲スモノトス
- 二、實行機關ハ天津米穀統制委員會華北墾業股份有限公司及華北交通株式會社之ニ當ルモノトシ各其ノ直轄指導地域内ニ於テ概ネ左ノ標準ニ依リ之ヲ栽培適地ヲ選定スルモノトス
 - (1) 灌溉水ノ不充分ナル荒廢水田
 - (2) 水田栽培ニ至ラサル未完成水田
 - (3) 排水不良ナル低濕地

三、實行機關別計畫面積及増産目標ヲ左ノ如ク豫定ス

實行機關別	實施地區名	全上計畫面積(町)	全上所要種子量(石)	全上ニ於ケル稈原數(石)	全上ニ於ケル生産高(石)
米穀統制委員會	天津縣	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇〇	七〇〇〇
	寧河縣	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇〇	八〇〇〇
	昌黎縣	三三〇	三三〇	三三〇〇〇	一五〇〇
	灤縣	六五〇	六五〇	六五〇〇〇	三二〇〇
	計	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇
華北墾業公司	寧河縣	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇〇	六〇〇〇
	灤縣	八〇〇	八〇〇	八〇〇〇〇	四〇〇〇
計	二一〇〇	二一〇〇	二一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	
華北交通株式會社	右地區以外	一〇〇〇	一〇〇	一〇〇〇〇	四〇〇〇
	稻地帯	一〇〇〇	一〇〇	一〇〇〇〇	四〇〇〇
合計		七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇〇〇	三三〇〇〇

(備考) 1. 所要種子量ハ反當一升トシテ算出ス

2. 生産高ハ反當收量原額トシテ一石、稈トシテ五〇〇冠トシテ算出ス

四石計畫實施ニ要スル移種子ハ各實行機關ニ對シ無償配布ヲ爲スモノトシ
右ノ所要種子ハ日本内地ハ青森、岩手、及朝鮮ヨリ供給受クルモノトス

五石ノ各實行機關ハ二月末日迄ニ移増産計畫ヲ作製シ在北京大日本帝國大
使館ニ提出スルモノトス

六指導獎勵上ノ耕種基準ニ關シテハ別途印刷配布ノ上遺憾無キヲ期スルモ
ノトス

七石計畫實施ニ要スル經費ニ付テハ別途處直スルモノトス



民國三十三年度農業緊急增產主要施設事項案 (民國三三、一、三一未確定案)

農業緊急增產對策要綱ニ準據シ民國三十三年度ニ於テ遂當リ施設ヲ爲リントスル主要施設事項左ノ如シ

第一 農村關係機關ノ整備及活動促進

一 鄉鎮農業協進機關ノ助成
本年ハ重點縣區中ニ於テ治安良好ナル米、麥、棉花等ノ主要産地六〇〇鄉鎮ヲ選定シ中堅農民特ニ本年春季訓練ヲ爲ス中堅農民ヲ中心トシテ鄉鎮組織ニ自主的ノ農業協進機關(以下鄉鎮農業協進會ト假稱ス)ヲ組織セシメ之ヲ以テ農業增産、農村經濟振興ノ中核的機關トシ、合作社農業改進實施機關、華中棉產改進會其ノ他各種農事ノ改良、共同施設ノ設置等重點的ニ當該鄉鎮ニ適合セル農業增産及經濟振興計畫ヲ樹立セシメ之ガ實現ニ邁進セシメントス而シテ本年度ニ於ケル農業增産就中主要食糧及油脂作物ノ增産施設

全國經濟委員會

ハ原則トシテ本機關ノ存スル鄉鎮ニ於テ之ヲ前シテ之ガ實現ヲ圖ラントスルヲ以テ農業增産上所要ノ事項ニ付テハ政府ヨリ夫々所要ノ補助金ヲ本機關ニ交付セララルモノトス
尚政府ハ右ノ外本機關助成費トシテ本年度二百五十萬圓ヲ計上シ一鄉鎮ニ付五〇〇圓ノ補助金ヲ交付シ本機關ノ設立、鄉鎮ノ農業增産及經濟振興計畫ノ樹立實行其ノ他ノ經費ヲ助成シ其ノ活動促進ニ資セシメントス

備考 省市縣區別鄉鎮數額表ニ依リ但シ一鄉鎮ハ農家二〇〇〇戸ヲ標準トセルヲ以テ農家一〇〇〇戸以下ノ鄉鎮ハ之ヲ二分ノ一トシテ考慮スルモノトス以下補助助成ノ基準ニ付テモ之ニ準ス

二 合作社ノ活動助成

合作社ハ試作農場ノ設置、墾植、肥料等農業資材ノ配給、農業資金ノ融通、中堅農民ノ指導訓練、鄉鎮農業協進會(以下協進會ト略稱)及互助社ノ設立及運営ノ指導助成其ノ他農業增産及農村經濟

全國經濟委員會

濟振興上重要ナル任務ヲ有スルヲ以テ本年度八百二十萬圓ヲ計上
 シ之ガ任務遂行上最モ重要ナル關係ヲ有スル技術員ニ對シ一人當
 俸給旅費月平均一五〇〇圓ヲ補助シ重點縣區合作社五〇人、同分
 社三五〇人（二鄉鎮ニ付一人）ノ設置ヲ助成スルト共ニ農林增産
 事務費就中中堅農民ノ訓練及連絡ニ要スル諸費ニ對シ一部額ニ付
 五〇〇〇圓ヲ標準トシテ補助金ヲ交付シ其ノ活潑ナル活動ニ資セ
 シメントス

三 互助社ノ整備及活動促進

本年ハ協進會ヲシテ鄉鎮内ノ村落中各種ノ條件ガ良好ニシテ就中
 中堅人物存シ村民一致共同、隣保共助ニ依リ農事ノ改良其ノ他農
 業ノ增産及經濟ノ改善ヲ實現スル見込確實ナルモノヲ選定セシメ
 之ヲ特別指導村トシテ之ニ農民ノ互助社ヲ設立セシメ農林增産及
 經濟振興計畫ヲ樹立セシメ之ニ對シ各種ノ補助施設ヲ集中シテ優
 秀ナル成果ヲ擧ケ近隣村ヲシテ自發的ニ本村ニ倣ヒテ各種ノ改善
 ヲ行フ如ク誘導シ以テ農林增産及農村經濟振興ニ資セシメントス

全國經濟委員會

而シテ本年ハ各種ノ補助ノ外政府ハ互助社ノ整備及活動助成費ト
 シテ一社一〇〇〇圓ノ補助金ヲ交付シ本團體ヲ整備シ農事ノ改良
 其ノ他農林增産及經濟振興計畫ノ樹立實行ニ資セシメントス本年
 度ノ重點地域内ノ豫定數四千社ニシテ之ニ要スル整備及活動助成
 費トシテ四百萬圓ヲ計上ス

四 中堅農民ノ活動助成

協進會設置豫定ノ重點鄉鎮ニ付毎保一人ノ割合ヲ以テ中堅農民ヲ
 合作社分社ニ集メ春、夏、秋ノ三季ニ分チ滿計十日間農業ノ緊急
 増産上必要ナル知識技術ヲ重點的ニ實地教育ニ依リ習得セシメ協
 進會ノ組織員トシテ又互助社ノ中堅人物トシテ特約農場ヲ經營ス
 ル等率先シテ農事ノ改良、經濟ノ改善ニ努力垂範セシムルト共ニ
 協進會ノ指導員トシテ活躍セシメントス之ガ爲中堅農民ニ對シ右
 ノ講習訓練ヲ~~後~~各種機關ト連絡シテ地方農民ノ啓蒙ニ資セシム
 ル爲本年度七百萬圓ヲ計上シ一人當五百圓ヲ補助シ以テ其ノ活動
 ヲ促進セシメントス

全國經濟委員會

第二 耕地ノ擴張改良及空閑地ノ利用促進

一 用排水ノ改良

本年度三萬畝ノ耕地改良目標ヲ以テ九百萬圓ヲ豫定シ、用排水施設ノ新設改良ニ依リ耕地ノ改良、收獲ノ増大著シク大(野)クトモ倍額以上ノ増收ヲ目標トス。ニシテ關係面積少クトモ一畝以上ノ可及的ニ大ナルモノヲ選擇シ、一畝當リ三〇圓ノ限度トシテ施設費ノ半額ヲ補助シ以テ地元合作社、互助社等適當ナルモノヲシテ之方施設ノ新設改良ヲ爲リシメントス尙右ノ工事ニ伴ヒ開墾ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テ別ニ開墾助成ノ條件ヲ具備スルモノニ付テハ用排水施設ノ補助金ト開墾助成ノ補助金ノ差額ヲ追加補助スルコトアルベシ而シテ本用排水改良ニ付テハ可及的ニ互助社施設ノ特別指導員ニ關係アルモノヲ優先セシメントス

政府ハ右ノ外關係面積著シク廣大ナル水利改良事業ニ付調査設計ヲ爲シ財政、資材、勞力等ノ許ス限リ之ガ實現ヲ圖ラントス

二 開墾ノ助成

全國經濟委員會

本年度三萬畝ノ荒地開墾目標トシテ九百萬圓ヲ豫定シ、合作社互助社、青少年團等適當ナル者ニ對シ一畝當リ三〇圓(但シ開田ニ在リテハ六〇圓)ノ限度トシテ工事費ノ半額ヲ補助シテ一畝地五〇畝以上ノ荒地ヲ選定シテ開墾ヲ爲リシメントス

三 空閑地ノ利用促進

本年度二萬畝ヲ目標トシテ二百萬圓ヲ計上シ都市及近郊等ノ空閑地ノ利用ヲ促進スル爲メ官市政府其ノ他適當ナル團體ガ空閑地ニ付公共用場場ヲ新ニ開設シ若ハ隣保班、會社工場、學校禮堂、青少年團等ヲシテ共同場場ヲ新設セシメ之ニ各種ノ指導、肥料、種苗器具等ノ貸付施設、保護看守等ヲ加フル場合ニ於テハ之ニ對シ一畝當リ一〇〇圓ノ限度トシテ所要ノ經費ヲ補助セントス

第三 主要食糧及油糧作物ノ増産施設

試驗研究及採種施設ノ整備

(一) 中央農業試驗所ニ關シ一千五百八十八萬八千圓ヲ計上シ技術人員五人ノ増徴、日籍技術人員一〇人招聘、研究室、宿舍ノ増徴、

全國經濟委員會

家畜及畜舎ノ増徴等其ノ整備ヲ圖ルト共ニ稻麥ノ主要産地ニ百六十萬五千圓ヲ以テ稻麥試驗場ヲ新設シ以テ農業改進ノ技術的基礎ヲ確立セントス

二) 稻麥採種場ノ事業費ヲ四十五萬圓増部シ夏作物及冬作物ノ採種工作ノ成果ヲ期待セントス

二 農業改進實驗區ノ整備

本年度百八十萬圓ヲ計上シ、糧食部所屬農業改進實驗區三十區ニ各三萬圓ヲ以テ病虫害防除用具、藥劑等ノ整備ヲ爲スト共ニ省市政府所屬ノ農業改進實驗區ノ整備ヲ期スル爲十五區ヲ選定シ各六萬圓ヲ補助シテ病虫害防除用具、藥劑等ノ整備ヲ爲サンノ事業ノ緊要ナル遂行ヲ期セントス

尙本年度九十萬圓ヲ計上シ右農業改進實驗區ノ夏作物及冬作物ノ試驗繁殖ヲ補助セントス

尙本年度九十萬圓ヲ計上シ右農業改進實驗區ノ夏作物及冬作物ノ試驗繁殖ヲ補助セントス

全國經濟委員會

三 試作及示範圃設ノ整備

(一) 合作社試作農場ノ助成

本年度百五十萬圓ヲ計上シ重點地域内ノ縣區合作社ニ於テハ四〇畝程度ノ試作農場五〇ヶ所、分社ニ於テハ一〇畝程度ノ試作農場三〇〇ヶ所ヲ設置センノ之ニ一畝當三〇〇圓ヲ補助シテ各農試作ヲ爲シ農民ノ實物教育ニ資スルト共ニ併セテ優良品種ノ採種ニ資センノトス

二 特約農家ノ助成

本年度一千萬圓ヲ計上シ主要ナル食糧及油脂作物地帯ノ合作社ヲシテ協進會ヲ設ク一畝當二〇〇圓ヲ補助シテ互助社又ハ中堅農民ヲシテ二〇〇〇圓ヲ計上シ各五畝程度ノ特約農場ヲ設ケシメ合式苗代ノ設置、米麥ノ模範栽培ヲ爲シシメ以テ近隣農民ノ實物教育ニ資シ農事ノ改良ノ普及ヲ圖ラントス尙右ノ特約農場ニ於テハ主要ナル甘蔗及茶種栽培地帯ニ於テ各一〇〇〇畝ノ甘蔗及茶種ノ特約栽培ヲ爲リシメントス

全國經濟委員會

四 施肥ノ改善其ノ他農産改良ノ指導

協進會ヲシテ四月ヨリ合作社及農業者改進實驗區ノ技術員指導ノ下ニ(以下同)仍テ以下之ヲ省略ス)勸導班ヲ派遣セシメ各村落ニ施設ノ改善品類ノ選擇其ノ他當該村落ニ最も適合シタル基本的事務ノ具體的改善事項ヲ村民ニ指示シ特ニ互助社設立村又ハ其ノ豫定村ニ於テハ農事改良計畫ヲ圖テシメ又之ト同時ニ自給肥料ノ製造及處理方法ヲ具體的ニ指導シ以テ之ガ増産運動ヲ展開セシメントス本年度ハ百二十萬圓ヲ計上シ一協進會ニ對シ勸導員ノ手當等ノ勸導費(以下勸導費ト稱ス)トシテ三〇〇〇圓ヲ補助セントス

五 稻作耕種改善ノ奨励

(一)苗代改良指導及品質評價ノ開催ノ助成
協進會ヲシテ苗代ノ各時期ニ應ジテ隨時勸導員ヲ各村ニ派遣シテ當該村落ノ中堅農民ト共ニ(以下之ニ同)依テ以下之ヲ省略ス)苗代ノ作り方、選種、播種、管理等ニ螟虫卵ノ採取、稗雜

全國經濟委員會

草ノ除去及田圃ノ時期決定等ニ付指導ヲ加フルト共ニ品質評價ヲ開催シ勸導員數人ヲ以テ審査班ヲ組織シテ合式苗代指導ノ各要點ニ付品質採點シテ優秀ナル成績ヲ示セル者ヲ表彰セシメ以テ苗代改善ヲ奨励セントス
政府ハ本年度三百十萬圓ヲ計上シ一協進會ノ勸導及審査費トシテ三〇〇〇圓、表彰費トシテ三〇〇〇圓ヲ補助セントス

六 螟虫蠶除運動ノ助成

協進會ヲシテ螟虫ノ發育状況ニ應ジ日時ヲ定メ螟虫一齊蠶除日ヲ各村ニ通告シ勸導員ヲ各村ニ派遣シテ直接農民ニ螟虫ノ卵蠶ノ状態並ニ被害ニ付説明シテ一齊ニ螟虫卵蠶幼虫ノ採取ヲ爲スカ如ク勸導セシム而シテ互助社ヲ設立シタル村ニ對シテハ勸導班ヲ派遣シテ特別ノ勸導ヲ行ヒ互助社ヲシテ螟虫卵蠶ノ買上ヲ實行セシム等ノ方法ニ依リ村民及學童等ヲ蠶動員シ以テ一齊蠶除ヲ行ハシムルモノトス政府ハ本年度六百六十萬圓ヲ計上シ一協進會ニ對シ勸導費トシテ一〇〇〇〇圓互助社ノ螟虫卵蠶買上

全國經濟委員會



設トシテ一社當リ三〇〇〇圓ヲ補助セントス但シ互助社數ハ主
要協作地帶三〇〇〇社ト豫定ス
(三) 稗放雜草除去運動ノ助成

協進會ヲシテ成ルヘク苗代期、第一回中耕期、收穫前ノ三回ニ
分チ稗放雜草除去運動ノ日時ヲ各村ニ通告シ勸導ス又遺留シテ
各回毎ニ一齊ニ之ガ運動ヲ展開スルガ如ク勸導ス而シテ互助社
ノ設立セル村ニ對シテ勸導班ヲ派遣シテ特別ノ勸導ヲ行ヒ稻田
ノ比較シテ成績優良ナル者ニ對シテハ互助社ヲシテ相當厚キ表
彰ヲ行ハシメントス之ガ爲本年度三百六十萬圓ヲ計上シ一協進
會ニ對シテ勸導費トシテ一〇〇〇圓、互助社ノ表彰費トシテ一
〇〇〇圓ヲ補助セントス但シ互助社數ハ本年三〇〇〇社ト豫定
ス

四) 稻作品評會及選種ノ助成

協進會ヲシテ稻作品評會ヲ開催セシメ審査班ヲ組織セシメ各村
特ニ互助社ヲ設立セル村ニ付稻作耕種改善指導上ノ各要點ニ付

全國經濟委員會

品評採點シ要スレバ評判等モ爲シ以テ優良ナル成績ヲ示セル者
ヲ表彰セシムルト共ニ其ノ審査ノ際各農民ツシテ明年度用ノ種
子ノ採取及保管ニ付所要ノ指導ヲ加ヘシメントス又昨ハ本年度
四百二十萬圓ヲ計上シ一協進會ニ對シテ審査班費トシテ三〇〇〇
圓、表彰費トシテ五〇〇〇圓ヲ補助セントス

六

麥作耕種改善ノ獎勵及冬季休耕地ノ解消運動ノ展開

合作社ノ試作農場及特約農家ニ依リテ條播ヲ指導獎勵スルノト耕
種ノ改良條播及之ニ伴フヘキ施肥、中耕、除草等肥培管理方法ノ
改善ニ付指導獎勵スルト共ニ冬季休耕地多キ特殊地方ニ付本年三
萬畝ノ休耕地解消ヲ目標トシテ勸導班ヲ派遣シ合作社ヨリハ種
子ノ無償貸與セシメテ各地ノ實情ニ即シタル利用方法ヲ導センメ
ントス而シテ本年度八百八十萬圓ヲ計上シテ一協進會ニ對シテ勸導
費トシテ一〇〇〇圓ヲ合作社ニ對シテハ種子貸付費トシテ畝當四
〇圓ノ補助ヲ爲リントス而シテ明年度ニ於テハ麥作ノ耕種改善成

全國經濟委員會

續ノ優良ナル者ニ對シテ表彰ヲ爲スト共ニ選種ノ指導ヲ爲シムル
爲相當ノ助成(概ネ一協進會ノ審査勸導設トシテ三〇〇〇圓、表
彰設トシテ三〇〇〇圓)ヲ爲リントス

七 甘藷ノ獎勵

主要甘藷商地一〇〇郡級ヲ選定シ協進會ヲシテ甘藷ノ育苗及栽培
方法ノ改良ノ指導並ニ甘藷ノ栽培ノ獎勵ヲ爲リシムル中略農民等
ノ特別栽培ニ依リテ範ヲ示リシムル共ニ、收穫時ニ當リテ多
收穫品評會ヲ開催セシメ以テ耕種方法ノ改善ノ獎勵ニ當リテ多
而シテ政府ハ本年度四十萬圓ヲ計上シ一協進會ノ表彰設トシテ三
〇〇〇圓、勸導審査班費トシテ三〇〇〇圓ヲ補助セントス

八 菓種ノ耕種改善ノ獎勵

本年ハ盛産リ主要菓種ノ中略農民又ハ互助社ニ優良品種ヲ配付シ
テ特別栽培ヲ爲シシムルニ止メ明年度以降全面的ニ之ガ普及ヲ獎
勵セントス

九 脫穀調製機ノ設置助成

全國經濟委員會

互助社ニ改良脫穀調製機ヲ設置セシメ脫穀調製方法ノ改善ヲ指導
シ且勞力ノ緩和ニ資セシムル共ニ漸次共同作業、共同利用ノ思
想ヲ涵養センガ爲本年度二百萬圓ヲ計上シ、一〇〇〇互助社ニ對シ
一社一〇〇〇圓ノ限度トシテ脫穀調製機ノ半額ヲ補助セントス

十 耕牛ノ配給給養助成

灌溉用燃油不足地方ニ對シ耕牛ヲ配給シ以テ農業者勞力ノ保持申
長ヲ圖ル爲本年度二百萬圓ヲ計上シ合作社ニ對シテ耕牛生産地ヨ
リ配給地ニ至ル運賃、手數料等ノ費用ニ付一頭一〇〇〇圓ヲ補助
シテ三〇〇〇頭ノ耕牛ヲ重點地域ノ特別指導員タル互助社所
在村ニ優先的ニ配給セシメントス

十一 畜産増強施設ノ整備

(一) 屠宰施設ノ擴張

中央農務省農務所ノ畜産關係部面ヲ擴充シテ一面屠宰場タルノ任
務ヲ果リシムル共ニ別ニ本年度四百五十萬圓ヲ計上シテ主要
畜産地ノ農業改良實験區及合作社ニ對シテ種牝牛一〇〇頭及種社

全國經濟委員會

一、五〇頭ノ配付シテ生産者ノ需要ニ應ジシメントス
 二、獣疫血清製造所設置
 本年度千三百二十八萬二千圓ノ計上シテ獸疫血清製造所ヲ設置シ
 合作社ノ技術員ノ巡回指導ト相俟テ獸疫ノ防除ニ力ヲ致シ以テ
 畜産ノ増進ヲ圖ラントス

第四 試験研究及深種施設ノ整備
 本年度千二十五萬七千圓ノ計上シ棉花ノ試験研究及深種特ニ原種
 ノ育成施設ノ整備ヲ爲スト共ニ洋蠶、青蠶、陸蠶等ニ付テハ百五
 十萬圓ヲ以テ試験研究施設ヲ整備スルノ外三百七十六萬一千圓ヲ
 以テ畜業試験場ヲ整備セントス

備佐ノ増強獎勵
 蘇浙皖三省及南京上海兩特別市ニ於テ本年度繼續二五〇萬圓ノ生産
 確保ヲ目標トシテ期間的増産ヲ圖ル爲棉花ノ生産、收買及配給ヲ
 備シテ一元的ノ企畫及統制ノ下ニ關係各機關協力一致ノ増産ノ實

全國經濟委員會

現期スルガ如ク農産ノ整備ヲ圖リ政府ハ本年度既定ノ補助金ノ
 外ニ三千萬圓ノ棉花緊急整備補助金ヲ追加計上シ關係各機關ノ
 テ全力ヲ懸ゲ一元的統制ノ下ニ全面的ニ増産工作ヲ展開センメ
 トス
 而シテ之ガ詳細ハ關係機關協議中ニシテ不日決定ノ見込

三 蠶桑ノ増強獎勵

政府ハ本年度三百十三萬四千圓ヲ計上シ民間機器力推廣工作ヲ擔
 當セラル地域ニ於テ二萬圓ノ新種ヲ目標トシ合作社増進會及互助
 社等ヲ動員シ耕作農民ニ種子ヲ無償配付スルノ外新種獎勵費款
 五〇圓ヲ交付シ之ガ新種ヲ獎勵スルト共ニ互助社等ニ對シ新種五
 〇畝ニ付二五〇圓ノ標準トシテ活動促進費ヲ交付シ又各協進會ニ
 三千圓ヲ交付シテ蠶桑栽培師ニ精洗廠及調製ノ講習會及品評會ヲ
 開催センメ新種五〇畝ニ付二五〇圓ノ標準トシテ品評會表彰費ニ
 對シ補助金ヲ交付センメントス
 四 蠶桑ノ増強獎勵

全國經濟委員會

政府ハ百十六萬圓ヲ計上ノ合作社、互助社等ノ團體ノ集積新墾ヲ獎勵スル爲一團地五〇畝以上ノ未墾地ヲ利用シテ墾殖ヲ新墾スル場合ニ於テ之ニ對シ一畝一〇〇圓ヲ補助セントス

五 蠶業施設

政府ハ七十一萬八千圓ヲ計上ノ蠶業試驗場附屬女子蠶桑講習所ヲ設置シ蠶業技術員ノ補充ヲ圖ルノ外嘉興吳江兩縣ヲ中央蠶桑改進實驗區トナシ飼育方法桑田經營方法ノ改善優良蠶種ノ配給等ヲ爲シントス右ニ要スル經費百十四萬六千圓トス

六 製工品増産

個包材料ノ供給確保ヲ圖ル爲製工品ノ初期の増産ヲ期シ本年度八百萬圓ノ撥充ヲ計上シ合作社ニ對シ製工品製造機械補入費置費ノ半額ヲ補助シ之ヲシテ一〇〇ヶ所ニ於テ製工品ノ製造ヲ爲シントス

一 化學肥料ノ重點配給

第五 農業資材ノ配給ノ改善

全國經濟委員會

米、麥及棉花ニ對スル配給ニ主眼ヲ置キ之ガ増産計畫ニ即應スルガ如ク化學肥料ノ重點的制常配給ヲ爲シントス

二 農機具ノ供給及配給ノ改善

中央農機具製造實驗所ノ機能ヲ整備シ優良農機具ノ供給ヲ豐富ニスルト共ニ各種農機具ノ製造及配給ノ改善ヲ圖リ農業増産計畫ニ即應センメントス

三 其ノ他ノ農業資材ノ配給ノ改善

増産計畫ニ即應スルガ如ク用排水機用燃料ノ配給ヲ圖ルト共ニ代用燃料施設ノ供給増加ヲ圖リ又耕牛ノ配給増進若ハ共同利用施設ノ促進ニ依リ之ガ消費ノ節約及補充ヲ講ゼントス之ガ計畫樹立ノ上要スレハ所要ノ豫算ヲ掲上セントス

第六 農業金融ノ改善

農業増産計畫ニ即應シ農業資金ノ融通ナル點油ニ付考慮セントス

第七 農業技術者ノ養成訓練

全國經濟委員會

一 職業關係機關技術員ノ短期講習訓練
 省市、縣縣政府其ノ他職業關係機關ノ中級技術員二〇〇人ニ對シテ
 本年度當初十日間ノ短期講習訓練ヲ行ヒ以テ政府ノ職業增進政策
 ノ教育ノ徹底スルト共ニ職業增進ニ要スル知識、技術ヲ再研修シ
 指導者トシテ必要ナル精神ノ修練ヲ爲サシメントス之ガ處ニ三十
 一萬圓ヲ計上シ講習訓練費ニ充當スルノ外講習訓練ヲ受クル者ノ
 旅費宿泊料ヲ補助セントス

二 農村指導人員養成訓練
 直接農民ノ指導ニ當ル初級指導技術員ノ充實ヲ圖ル爲本年夏季青年
 工廠二二百五十萬圓ノ補助金ヲ交付シテ農村ノ子弟ニテ初級
 中學校卒業程度ノ學力ヲ有スル者二〇〇人ニ付一切ノ費用ヲ青年
 工廠ニ於テ負擔シ十月間教育訓練センメントス

三 合作社職業技術員養成訓練
 本年合作社分社ニ配置シ直接農民ノ指導ニ當ルベキ初級技術員ヲ
 急速ニ養成訓練スルノ要アルヲ以テ各地中堅農民中最も優秀ナル

全國經濟委員會

三三五〇人ヲ選抜シテ四ヶ所ニ於テ奉季一月ノ短期訓練ヲ施シテ
 之ヲ各其ノ郷里ノ合作社分社ニ配置シテ隨時所要ノ指導指導ヲ加
 ヘ以テ農民指導ニ當ラン本年未再ビ二ヶ月ノ教育訓練ヲ加ヘ以
 テ初級技術人員トシテ所要ノ教育訓練ヲ了ヘントス此ノ期間ニ於
 ケル訓練生ノ宿舍、食費、旅費等ハ總テ政府ヨリ之ヲ補助スルト
 共ニ講習訓練費トシテ一ヶ所十萬圓ヲ補助セントス之ニ要スル費
 費總算百八十萬圓トス

四 政府ハ開化及農作ノ指導ニ當ル高級技術員ノ養成ヲ圖ル爲本年
 度百四十八萬七千圓ヲ計上シ五〇人ヲ十ヶ月間教育セントス

第八 功勞者ノ表彰
 本年度百八萬五千圓ヲ計上シ功勞者ニ努力シ其ノ成績顯著ニシテ衆ノ
 模範タルモノニ付一郡一縣功勞者其ノ功勞者ヲ二人程度、優良互助
 社二郡一社、優良郡縣職業協進會一縣一會程度ヲ省市ノ職業增進
 企業協同機關ノ發ヲ發テ各五〇〇圓、T.C.C.C.圓、T.C.C.C.圓、T.C.C.C.
 圓ノ費用ヲ以テ省市長マシテ之ヲ褒賞センメントス

全國經濟委員會

民國三十三年度農業增產經費總概算 二月十九日審查會修正

項 目	金 額	備 註
第一款 農業增產運動經費	11,750,000	
第一項農村關係機關助成活動及促進費	11,750,000	
第一目鄉鎮農業協進會設立助成費	3,000,000	選定六〇〇鄉鎮設立農業協進會各補助五〇〇〇元(合作事業委員會)
第二目合作社活動助成費	5,100,000	新設技術員支社五〇八分社三〇〇〇人各月支一五〇〇元八箇月共四二〇〇〇元又每鄉鎮補助事務費五〇〇〇元六〇〇〇元鎮共三〇〇〇〇元(合作事業委員會)
第三目互助社活動促進費	4,000,000	設立互助社四〇〇社每社活動促進助成費一〇〇〇元(合作事業委員會)
第四目中堅農民訓練及活動助成費	6,000,000	訓練一三〇〇〇名訓練及活動助成費每名平均五〇〇元(合作事業委員會)
第五目農民福利設施助成費	3,650,000	設立農村診療所三〇所(社會福利部)

全國經濟委員會

第一款 耕地拓展改良及促進休閑地利用經費	1,500,000	預定三〇〇〇〇畝每畝補助三〇〇元(建設部)
第一項排水設施改良費	9,000,000	預定墾拓二〇〇〇〇畝每畝補助三〇〇元(實業部)
第二項開墾事業費	6,000,000	預定二〇〇〇〇畝每畝補助一〇〇元(實業部)
第三項休閑地利用促進費	1,000,000	在建設公債項下撥支
第四項太湖地區開拓事業費		
第三款 主要食糧增產設施費	2,950,510	
第一項試驗研究設施費	1,172,200	充實中央農業實驗所補助費四八三八〇〇元及設立稻麥試驗場經費八〇九八〇〇元(糧食部)
第一目試驗研究設施經常費	6,647,800	充實中央農業實驗所設置費五七三〇〇〇元及稻麥試驗場臨時費七九五〇〇〇元(糧食部)
第二目試驗研究設施臨時費	6,555,000	
第二項試驗繁殖及示範事業補助費	1,424,000	

全國經濟委員會

E-0042

第一目採種事業補助費	500000	各稻麥採種場補助費(糧食部)
第二目農業改進實驗區事業補助費	1700000	部屬農業改進實驗區(一)處省市一五處試驗繁殖補助費各二〇〇〇元又部(一)處病蟲害防治用具藥劑補助費各三〇〇〇元省市一五處病蟲害防治用具藥劑補助費各三〇〇〇元其他事業補助費及六〇〇〇元藥劑補助費(糧食部)
第三目示範農田補助費	1700000	合作社試作農場五〇〇〇畝每畝補助費三〇〇元互助社及中堅農民特約示範農田一〇〇〇所共五〇〇〇〇畝每畝補助費三〇〇元(糧食部)
第三項指導獎勵費	11200000	
第一目改善施肥指導費	1700000	六〇〇鄉鎮勸導費及示範材料各二〇〇〇元(糧食部)
第二目改進稻作耕種技術指導獎勵費	1700000	上數內保留三百萬元俟必要時始行動支
第一節秧田品評獎勵費	3000000	六〇〇鄉鎮勸導審查費各二〇〇〇元獎勵費各三〇〇〇元(糧食部)
第二節防除螟蟲獎勵費	6000000	六〇〇鄉鎮勸導費各一〇〇〇元又收買螟卵螟蛾費三〇〇〇互助社各三〇〇〇元糧食部)
第三節除稗除草指導獎勵費	3000000	六〇〇鄉鎮勸導費各一〇〇〇元獎勵費三〇〇〇互助社各一〇〇〇元(糧食部)

(全國經濟委員會)

第四節稻作栽培選種指導獎勵費	4000000	六〇〇鄉鎮審查費各二〇〇〇元獎勵費各五〇〇〇元(糧食部)
第三目改進麥作耕種技術及推進休耕地利用指導獎勵費	7000000	六〇〇鄉鎮勸導費各一〇〇〇元又補助種子費三〇〇〇〇畝每畝四〇〇元(糧食部)
第四目提倡甘藷栽培指導獎勵費	500000	一〇〇〇鄉鎮勸導審查費各二〇〇〇元又獎勵費各三〇〇〇元(糧食部)
第五目購置脫穀機補助費	7000000	一〇〇〇互助社補助購置費半數各二〇〇〇元(糧食部)
第六目補助購置耕牛費	10000000	耕牛三〇〇〇頭各補助運輸及雜費一〇〇〇元(糧食部)
第四項種畜配置費	4000000	主要畜產地之農業改進實驗區及合作社備交配用之種牡牛一〇〇頭種牡豚一五〇頭所需購置費連同牛舍猪舍及飼養管理費用(糧食部)
第五項血清製造設施費	12000000	
第一目血清製造所經常費	12000000	糧食部
第二目血清製造所臨時費	17000000	糧食部
第四款 纖維及其他特用農產增進設施費	59700000	

全國經濟委員會

E-0042

第一項棉作增產設施費	40,000,000	棉花原種場經費三,四九〇,五〇〇元(實業部) 驗育種場經費一,四二四,八〇〇元(實業部) 棉花原種場臨時費三,八三三,〇〇〇元(實業部) 試驗育種場臨時費一,五〇三,七五〇元(實業部) 調查費二,四〇〇,〇〇〇元(實業部)
第一節試驗研究設施經常費	4,915,300	
第二節試驗研究設施臨時費	5,587,700	
第二項棉作推廣費	5,000,000	實業部
第二項麻作增產設施費	4,450,000	
第一節試驗研究設施費	1,500,000	麻作試驗場經常費(實業部)
第二節試驗研究設施臨時費	5,000,000	麻作試驗場臨時費(實業部)
第二項麻作推廣費	1,750,000	實業部
第三項蠶絲增產設施費	5,282,000	
第一節試驗研究設施經常費	5,189,500	蠶桑試驗場及苗圃經常費三,五三二,八〇〇元 蠶桑講習所經常費七,一七七,〇〇〇元 蠶桑改進實驗區經常費九,四九〇,〇〇〇元 實業部

全國經濟委員會

第二節試驗研究設施臨時費	4,212,000	蠶桑試驗場臨時費四,七五〇,〇〇〇元(中央蠶桑改進實驗區臨時費一九七,八〇〇元(實業部))
第四項苧麻增產設施費	11,000,000	實業部
第五項蠶工品增產獎勵費	1,000,000	補助合作社及分社設置稻草加工機械費(實業部)
第五款 技術人員訓練費	6,096,890	
第一項抽訓農業機關技術人員訓練費	3,100,000	抽訓中央及地方現職技術人員二〇〇人 訓練十日各支膳宿費六〇〇元 旅費五〇〇元 共二,〇〇〇元 分三處舉行各講師講議 辦公雜費三〇〇〇元(糧食部)
第二項農村指導人員訓練費	1,700,000	一〇〇人各月支膳宿費九〇〇元 實習旅費一〇〇〇元 十箇月共三,〇〇〇元 又講師講議辦公雜費五〇〇元 糧食部
第三項合作社農業指導員訓練費	1,200,000	三五〇人三箇月膳宿旅費平均各四,〇〇〇元 計一,四〇〇,〇〇〇元 分四處舉行事務費四〇〇,〇〇〇元(合作事業委員會)
第四項棉作技術人員訓練費	1,486,890	實業部
第一節棉作技術人員訓練所經常費	1,200,000	

全國經濟委員會

E-0042

第二目 掃作技術人員訓練所 臨時費	二八、四九〇	實業部
第六款 獎勵費	一〇、八〇〇	成績優良之農業協進會互助社中堅農民及其勞績獎勵費（農業增產策進委員會）
第七款 推進增產事務費	三、四〇〇	
第一項 農業增產策進委員會推進增產事務費	四〇〇	
第二項 實業部推進增產事務費	一〇〇,〇〇〇	
第三項 糧食部推進增產事務費	一〇〇,〇〇〇	
第四項 合作事業委員會推進增產事務費	一〇〇,〇〇〇	
以上 共 計	一七、六〇七、四七〇	員工臨時加俸併計在內

全國經濟委員會

E-0042



昭和十九年二月二十八日

昭和十九年度天津地區米穀竝米作地帶農產物增產對策要綱(案)

天津米穀統制委員會

E-0042

0035

目次

- 第一 方針
- 第二 要領
 - 一 増産施策
 - 1 河水使用添制
 - 2 土地改良
 - 3 作付統制
 - 4 耕種改善
 - 5 營農資金並資材
 - (1) 營農資金
 - (2) 營農資材
 - (a) 食糧配給
 - (b) 種子配給
 - (c) 肥料配給
 - (d) 揚排水用資材配給
 - (3) 役畜配給
 - (4) 農具配給
- 三 增産獎勵施策
 - 1 米穀蒐荷
 - 2 米穀以外ノ農産物蒐荷
- 四 増産獎勵施策
 - 1 副業ノ奨励
 - 2 模範圃(採種圃)ノ設置
 - 3 米穀多收檢辨作會ノ實施
 - 4 篤農家表彰
 - 5 講習、講話會並宣傳
 - 6 組合倉庫ノ擴充
- 五 農村更生施策
 - 1 生活必需品ノ特殊配給
 - 2 厚生施策
- 六 米穀指導者ノ養成
- 七 農事組合ノ充實強化



昭和十九年度天津地區米穀作地帶農產物増産對策要綱(案)

- 一 農ニ決定セラレタル昭和十九年度華北農產物増産對策要綱ニ基キ天津市及天津、寧河、滄、昌黎縣ノ米作地帯ニ於ケル日米農協協同會系農協組合ヲ對象トシ増産施設ヲ一層統制強化シ急速ナル増産ヲ期ス
- 二 日華協力ノ下ニ行政指導力ノ發達ニ依リ本管農村ノ更生建設ヲ圖リ農民ヲシテ大東亞戰争遂途上ニ於ケル國策完遂ニ寄與セシメ生産ニ對スル負擔率ヲ高メムトス
- 三 本年度米穀生産目標額九三九四〇〇石ノ増産達成ヲ期ス

第二 要 領

- 一 増産施設
 - 米穀ノ増産確保ヲ期シテ而シテ小麥其他重要農產物ノ増産ヲ圖ルタメ系統行政力ノ發達ニ依リ大津米穀統制會ハ其ノ機關タル團體ニ對シ左記ノ如ク之カ業務ノ統制指導ヲ實施ス
 - 米穀作付面積水田三三、八〇〇町歩、生麥高砂九三、九四〇〇町石ヲ目標トシ併セテ小麥、雜穀等ノ増産ヲ期スル諸施設次ノ如シ

河水使用統制

- (イ) 河水使用統制ニ關シテハ天津地區河水使用統制要項ニ基キ主務機關天津市政府之ヲ行フ
- (ロ) 天津地區米作地帯ニ對シ河水使用ノ許可制ヲ實施シ河水使用ノ統制ヲ行フ
- (ハ) 農藥上河水使用ノ基本タル水田及灌漑畑面積ノ調査調査ハ前年ニ引續キ續行シ水田、畑ノ土地登記及圖面ノ作成ヲ爲ス

2 土地改良

- (イ) 本年度土地改良計畫ハ天津地區ノ水田分布カ各河川ノ五、六月ニ於ケル流量ニ比シ既ニ其ノ使用可能限度以上ノ支配面積ナル現狀ニ鑑ミ河水ノ合理的、集約的利用ニ依リ既耕水田ノ改良確保ヲ第一義トシ揚排水施設用排水路、小設備等ノ改良ヲ實施シ單位面積ノ増收ヲ圖ルヲ以テ主眼トス
- (ロ) 農民ノ本中央直轄農墾地方助成事業ニ併行シ小地區土地改良事業トシテ熟地開墾ヲ行ヒ荒地ノ開墾、既耕水田ノ灌漑ヲモ實施シ水田、小麥、雜穀等ノ作付ヲ可及的ニ促進セシム
- (ハ) 土地改良ニ依リ年産目標ハ開墾五〇八、一町歩、舊田改良一四

三六〇町歩、開地七〇一〇町歩、畑灌漑三、四、六、四町歩ニ對シ生
產高米穀概一、二、五、一、〇和石（一、三、三、一、一噸）小麥、雜穀七、五
一二噸トス

(一) 土地改良事業遂行ノ爲ノ工種別反當リ、標準融資金次ノ如シ
土地改良事業工種別反當標準融資金

工種別	反當融資金
畑地開墾	一五〇圓
畑地灌漑	五〇圓
水田開發	三〇〇圓
舊田改良	一〇〇圓

融資金ノ總額ハ別冊實施要領ニ依ル

(二) 冀東、津海兩道ニ於ケル水稻増産ヲ目的トスル土地改良事業
ヲ施行セントスルモノハ天津米穀統制會經由天津米穀統制委員
會委員長宛申請ヲ爲スモノトス
右申請書式ハ別冊ニ定ム
(三) 土地改良事業施行者中其ノ效果確實ナルモノニ限り天津米穀
統制會幹旋ノ下ニ華北農業公司ヨリ其ノ事業費ヲ融資ス

右融資ニ關スル條件ハ年利三分五厘三ヶ年据償七ヶ年元金均等
償還トス

(四) 右土地改良資金ノ融資ヲ受ケタル者ニ對シ天津米穀統制會ハ
事業施行上ノ指導ニ當リ作付統制及計畫生産ニ依ル責任供出ヲ
爲サシム

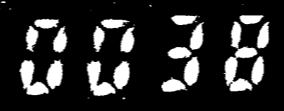
3. 作付統制

計畫増産施策ノ效果ヲ期スル爲作付統制ヲ實施ス

(1) 作付統制ノ方法次ノ如シ

- (1) 水稻作ハ各河川ノ春季濁水ヲ考慮シ水利良好ナル地域ニ重
點ヲ置キ之ヲ實施ス
- (2) 畑作ニ於テハ極力主要糧穀作ヲ重點トシ一般米作農民食糧
ノ自給自足ニ資ス
- (3) 水田裏作ニ付テハ水利良好ナル地域ニ在リテハ水田面積ノ三
割ヲ限壓トシ白河下流沿岸地域ニ在リテハ之ヲ抑制ス
- (4) 作物別作付統制面積
- (2) 水稻面積三、三、八〇〇町歩ノ作付ヲ左ノ通割當テ之ヲ統制ス

地區名 作付統制面積



天 津 三〇一〇町歩
 漢 沽 五〇三〇〃
 葛 沽 一七九〇〃
 小 站 五二八〇〃
 軍 糧 城 六六五〇〃
 蘆 台 七八二〇〃
 昌 黎 四二二〇〃
 計 三三八〇〃

水稻作付ノ日系農場、華系農事組合別統制面積ハ別冊實施要領ニ依ル

(2) 畑地面積二五三〇〇町歩ノ作付ヲ左ノ通統制ス

地區名	作付統制面積
天 津	二五〇〇町歩
漢 沽	三二〇〇〃
葛 沽	一四〇〇〃
小 站	三三〇〇〃
軍 糧 城	三八〇〇〃

蘆 台 一〇、四〇〇町歩
 昌 黎 一七〇〇〃
 計 二五三〇〃

右畑作ノ作物別日系農場、華系農事組合別作付統制面積ハ別冊實施要領ニ依ル

4 耕種改善
 生産力ノ増強ヲ圖ル爲蓄來ノ耕種法ヲ改善シ單位面積ノ増收ヲ主眼トシ左ノ耕種改善ヲ實施ス

(1) 品種改良
 多收性優良品種ノ種子額ヲ配給シ不良品種ヲ驅逐ス

(2) 本年度水稻種子配給量ハ作付統制面積二三、八〇〇町歩ニ對シ優良日本種二五〇〇〇和石トス、品種別内詳左ノ如シ

品種名	數 量
銀 坊 主	一三、〇〇〇和石
愛 國	八、二〇〇〃
陸 羽	二、四〇〇〃



其ノ他 二五〇〇〇

(ロ) 施肥

(1) 地方ヲ増進シ増産ニ遺憾ナキヲ期スル爲自給肥料ノ増産施用ヲ奨励スルト共ニ硫酸、棉實粕ヲ配給シ之カ合理的施用指導ヲ併行ス

(2) 水稻地ニ對スル硫酸ノ配給量ハ總面積三三八〇〇町歩ニ對シ一三九四四噸ヲ、其ノ他ノ作物ニ對シテハ別表ニ基キ確保配給ノ豫定トス

(イ) 病蟲害防除

(1) 病蟲害防除ニ依リ極力増産ヲ實現センカ爲藥劑ノ撒布ヲ奨励シ水稻作ニ對シテハ藥劑約五〇噸ノ配給ヲ豫定ス

(2) 石蒜種改善諸施策ノ實施ニ關シテハ除蟲排水ノ徹底、早蒔、早播ノ勵行、密植ノ奨励、中耕除草ノ徹底、晚植栽培ノ合理化等濃厚ナル技術的指導ヲ行ヒ其ノ實行ヲ期ス

5 營農資金並資材

營農資金、食糧、種子、肥料、燃料、農具及勞働力其ノ他生産資材不足等ノ爲深刻化セル農業經營ノ障礙ニ對シテ台譯的經營ノ指導ニ依リ農家經濟ノ安定ヲ圖リ以テ米作農民ヲ良導、米穀ノ増産確保ヲ期スル爲左ノ營農資金、資材ノ貸付、配給ヲ實施ス

(イ) 營農資金

- (1) 天津米作地帯ニ於ケル日系農場及華系農事組合ニ貸付クヘキ營農資金ハ水田二五〇〇町歩ニ對シ水稻作資金三、〇〇〇萬圓(反當リ一、二〇圓)、畑作一八〇〇町歩ニ對シ畑作資金一〇〇萬圓(反當リ五〇圓)、前三八〇〇萬圓ノ豫定トス
- (2) 營農資金ハ天津米穀統制委員會ノ斡旋ニ依リ天津米穀統制會之ヲ借入シ、營農進捗狀況ヲ勘案ノ上之ヲ分割貸與ス
- (3) 貸付金ノ返還ニ付天津米穀統制會ハ米穀及其ノ他農産物ノ收買期ニ於テ回收ヲ期知十九年十二月二十日迄ニ貸出先ニ返還ス

(ロ) 營農資材

- (1) 食糧配給



イ、米作農民ノ衣食安定、増産確保ノ實效ヲ擧クル爲本年底
 確給スヘキ營業食糧雜糧ハ八五〇〇噸ノ檢定トス
 ロ、天津米穀統制會ハ輸入雜穀及地場產雜穀ヲ當局ヨリ採下
 ラ受ケ右數額ヲ確保配給ス
 ハ、食糧配給ノ趣旨ニ照シ其ノ徹底ヲ圖ル爲配給基準ヲ決定
 可及的切符配給制ヲ實施ス

(2) 種子配給
 水稻、麥類、雜穀、其ノ他ノ所與種子ヲ確保シ之ヲ配給ヲ爲
 ス
 右種子ノ作物別數量ハ別冊實施要領ニ依ル
 (3) 肥料配給
 確安、補實料ノ所與量ヲ確保シ之ヲ配給ス
 右肥料ノ種類別配給量ハ別冊實施要領ニ依ル
 (4) 揚水用資材配給
 揚水用資材石炭、木炭、燃料油、潤滑油等必要資材ノ所與量
 ヲ確保シ之ヲ配給ス
 右種類別配給檢定量ハ別冊實施要領ニ依ル

(5) 役畜配給
 イ、勞力ノ補填並自給肥料ノ増産上必要ナル有畜養獎勵ノ
 爲役馬、役牛ノ確保配給ヲ爲ス
 ロ、畜産指導上牛馬給養等ヲ整備シ施策遂行ニ遺憾ナキヲ期
 ス
 (6) 農具配給
 優良農具ヲ確保シ之ヲ配給ス
 右農具ノ配給計畫ハ別冊實施要領ニ依ル

二 莫荷施策
 米穀莫荷
 米穀莫荷目標ヲ視セ五〇〇〇〇和石トシ之ヲ確保ヲ期スル爲次ノ
 諸施策ヲ實施ス
 (1) 契約栽培
 (1) 契約生産栽培ヲ實施シ供出量ヲ確約ス
 (2) 地區別契約最低責任供出量ヲ次ノ如ク割當ツ
 地區別最低責任供出量
 地區名 責任供出量



天	薄	六三、八七〇和石
水	浩	一、二、一、六、三〇〇〃
島	浩	四、五、〇、三〇〃
小	站	一、五、一、六、七、七〃
軍	城	一、五、五、二、七、六〃
蘆	台	一、六、八、八、五、八〃
昌	黎	四、三、六、三、九〃
計		七、五、〇、〇、〇〃

(ロ) 見返食糧配給
見返食糧ノ配給ハ責任供出量ニ應シ之ヲ實施シ約一六五〇〇ト
ヲ決定ス

右配給ノ基準、數量、方法等ハ別冊實施要領ニ依ル

(ハ) 供出奨励
責任供出量以上ノ供出者ニ對シテハ其ノ超過供出量ニ應シ特別
ノ奨励金ヲ交付ス、本奨励金ニ關シテハ購買統制要領ニ之ヲ示
ス

(ニ) 資金、資材ノ貸付配給

一 營農資金、資材ノ貸付配給ニ當リテモ責任供出ノ確約ヲ前提ト
シ契約生産ニ應シ之ヲ實施ス

二 米穀以外ノ農産物蒐荷
米穀供出ニ依ル農民ノ食糧不足ヲ緩和シ米作農民ノ生活安定ヲ圖
ル爲米穀以外ノ農産物蒐荷ニテハ別ニ之ヲ定ム

(イ) 行政收購以外ノ麥類、雜穀ニ在リテハ農場又ハ農事組合ヲ單
位トシ共同保管制ヲ實施ス

(ロ) 蔬菜等ニ在リテハ之カ販賣斡旋ヲ實施ス

三 増産奨励施策

一 副業奨励

餘剩努力ヲ利用シ農家經濟ノ安定ニ資スル爲製繩、製紙、製糖ヲ
指導奨励シ之ニ必要ナル資材ヲ確保配給ス

二 模範圃(採種圃)設置
米穀増産奨励並優良種子自給ノ目的ヲ以テ模範圃ヲ設置シ濃厚ナ
ル指導ヲ加ヘ模範的栽培ニ依リ一般水稻作ノ改良ニ資スルヲ共ニ
之カ生産額ハ次年度用種子トシテ之ヲ確保ス

本施策ノ實施細則及助成ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム



3 米穀多收穫耕作會ノ實施
水稲ノ單位面積ニ於ケル急速ナル増産ヲ期スル爲米穀多收穫耕作會ヲ實施ス
實施ニ關スル細則並豫算ハ別ニ之ヲ定ム

4 篤農家表彰
米作篤農家表彰ヲ實施ス
實施細則並豫算ハ別ニ之ヲ定ム

5 講習、講話、宣傳
諸施策ノ徹底ヲ期スル爲講習、講話會ヲ開催スルノ外旬報「勸農」ヲ發行ス

6 組合倉庫ノ擴充
之カ實施要領及經費豫算ハ別ニ之ヲ定ム

組合倉庫ヲ整備シ生産物ノ蒐荷並配給物資ノ保管ニ資ス
之カ實施要領並經費豫算ハ別ニ之ヲ定ム

米作農村ノ實態調査
米穀増産、米作農民安定並農村更生ノ基礎的資料ヲ得ル爲管内米作農村ノ實態調査ヲ實施ス

之カ實施要領及經費豫算ハ別ニ之ヲ定ム

農村更生施設

1 生活必需品ノ特殊配給

米作指導農民ノ生活ヲ安定シ米穀並農産物ノ増産確保ヲ圖ル爲生活必需品ノ特殊配給ヲ實施ス
配給豫定物資並配給細則ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

2 厚生施設

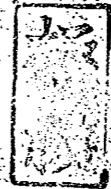
指導農民ニ對シ醫療文化等諸般ノ厚生施設ヲ實施ス
之カ種別、方法等ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

米作指導者ノ養成

米作指導者ヲ養成スルタメ農民子弟ノ優秀ナル者ヲ募集シ農事指導訓練ヲ實施ス
之カ實施ニ關スル實施要領ハ別ニ之ヲ定ム

農事組合ノ充實強化

本年度増産諸施策ノ徹底並敵對工作ニ對抗シ農民ト收穫物ノ把握確保ヲ期スル爲農事指導員ヲ増置シ農事組合ノ充實強化ヲ爲ス
右實施細則ハ別ニ之ヲ定ム



支大總經等四八號

昭和十九年二月二十八日

別紙添付

存中華民國
將命全權大使 谷 正之

大東亞大臣 青木一男 啟

農林省農產管理委員會送付ノ件

國民政府行政院農林部農產管理委員會ニ於テハ全國農產增產會議ノ決議

ニ基キ農產增產管理要綱ヲ決定シタル次第ハ本月中旬不取敢拙電ヲ以

テ報告申准置キタル處右要綱譯文別紙ノ通り送付ス

尙右ニ關スル豫算、細目等ハ國民政府ニ於テ鋭意研究中ニ付決定次第

追報ス
本信寫送付先 北京、張家口、上海、廣東

第一 方針

中國參戰以來ノ民食問題及其ノ他各種ノ情勢ニ鑑ミ上下協力シ國ノ
總力ヲ擧ケ食糧其ノ他重要農產物ノ增産ヲ圖リ以テ戰時自給體制ノ
確立並需要供給ノ平衡ノ保持ニ努ムルト共ニ農村ノ復興民生ノ安定
ヲ期セントス

第二 要 綱

一、行政院ハ農林部農產關係各部曾ヲ以テ、省市ハ農林增產關係各機關
ヲ以テ各農產增產增進委員會ヲ設置シ全國又ハ各省市ニ就キ實情
ニ則シタル農產增進計畫ヲ樹立セントス

二、中央及地方政府ハ農產增進政策ヲ徹底的ニ推進センカ爲メ各地合

作支社、分社、生産互助社及各鄉鎮農事協進會等ノ下部機關ヲ利

用シ以テ全國農產運動ノ展開ニ協同邁進セントス

三、本增產方策ハ治安良好ニシテ推進ニ便利ナル區域ニ施行セントス

三省兩市内ニ於ケル實施地域ハ左ノ如シ(淮海省ハ別ニ之ヲ定ム)

- 1、上海特別市 寶山、北橋、嘉定、崇明
- 2、江 省 吳縣、吳江、崑山、常熟、武進、武錫、江陰、
松江、青浦、金山、鎮江、太倉、丹陽、江寧、
揚州、南通、海門、啓東、泰縣、如皋
- 3、浙 江 省 平湖、嘉興、嘉善、海鹽、杭縣、於潛、蕭山
- 4、安 徽 省 蕪湖、繁昌、蕪湖
- 5、南京特別市 銅山(徐か)、河東河(河か)、宿遷(宿か)
- 6、北 河 省

四 農業増産ノ主要作物ノ種類ハ左ノ如シ但シ地方ノ事情ニ依リ特ニ食糧作物ニ就テハ單位面積ノ收量多キモノヲ奨励セントス

1、食糧作物 米、麥、大豆、豆、甘藷、特ニ米、麥

2、油脂作物 油、胡麻、蓖麻、特ニ油、蓖麻

3、纖維作物 棉花、黃麻、洋麻

五 農民ヲシテ農事ノ改良ト生産増加トノ關係ヲ充分ニ認識セシメ隨時之ニ必要ナル協助ヲ與ヘルト共ニ農民ヲシテ自主且積極的農業増産ノ觀念ヲ啓發スル爲左ノ施策ヲ實施スルモノトス

1、收買價格ノ調整、價格決定ニ方リテハ重要農作物相互間ノ價格ノ調整ニ特ニ留意スルモノトス

2、化學肥料、油類燃料、農具、耕牛等ノ農業用必需物資及生活必需物資ノ配給ノ合理化圖消化ヲ圖ルコト之ガ爲必要アレバ商統會ト合作社ト隨時連絡ヲ爲サシムルカ如ク考慮スルコト

3、増産ニ努力シ其ノ成績顯著ニシテ衆ノ模範タル者ニ對シテハ之ヲ褒賞スルコト

4、其ノ他農業金融、諸試課ノ改善等農事増産事業ニ關係アルモノニ付テハ十分ナル考慮ヲ拂フコト

六 各種試驗研究示範施設ヲ整備シ農民ノ實物教育ニ資スルト共ニ農業技術員ヲ充實シ且鄉鎮改進機關及鄉村互助社ノ組織ヲ整備シ以テ農民増産工作ノ指導推進ニ努力セントス

七 東太湖一帯ノ湖沼地區ノ開墾ヲ實施スルト共ニ其ノ他會社等ノ行フ耕地改良拓殖ニ協力セントス

八、都市住民ヲシテ時局ヲ認識シ荒地開墾、空地利用等増産ニ努力セシムルト共ニ會社團體ニ對シ食糧及原料ノ自活ヲ目的トスル爲メ耕地ノ造成及經營ヲ積極的ニ奨励シ具ノ生産物ニ就キ統制ト特別ノ考慮ヲ拂ハントス

九、全國民ヲシテ消費ヲ矯正セシメ資金及資材ヲ擧ケテ増産ニ集中シ投機、操縦或ハ囤積居奇スルモノニ對シテハ關係各方面ト協力シ之ヲ取締ルモノトス

一〇、以上各項ノ實施辦法ハ別ニ之ヲ定ム



支大總經第四八號

昭和十九年二月二十八日

在中華民國

特命全權大使谷

正之



大東亞大軍 青木一男 殿

農業增產特進要綱送付ノ件

國民政府行政院農業增產特進委員會ニ於テハ全國農業增產會議ノ
決議ニ基キ農業增產特進要綱ヲ決定シタル次第ハ本回中何不取敢
拙意ヲ以テ報告申進置キタル處右要綱譯文別紙ノ通り送付ス
尚右ニ關スル豫算細目等ハ國民政府ニ於テ銳意研究中ニ付決定
次第追報ス

本信寫送付先 北京、張家口、上海、廣東

212-642
2月2日
批
添付
50000
6000
50000
1825



行政院農業增產策進委員會農業增產策進綱要

第一方針

中國參戰以來、民食問題及其他各種之情形、日益趨於恐慌、上下階級之國、總力ヲ擧ケ食糧其ノ他重要物資ノ增產ヲ圖リ以テ戰時自給體制ノ確立並需供給ノ平衡ヲ保持ニ努ムルト共ニ農村ノ復興民生ノ安定ヲ期セントス

第一要綱

一、行政院農業增產關係各部會ヲ以テ、省市ハ農業增產關係各機關ヲ以テ各農業增產策進委員會ヲ設置シ全國又ハ各省市ニ統一的ニ推進セシメ之ヲ實施セシムルニ務ム

二、中央及地方行政機關、農業增產策進委員會ヲ設置シ統一的ニ推進セシムルニ務ム

三、農產互助社及各鄉鎮農事輔導會等ノ下部機構ヲ利用シ以テ全面增產運動ノ展開ニ積極的ニ推進セシム

四、增產方針ハ治安良好ニシテ推進ニ便利ナル區域ニ施行セシム

三 省市六ニ於ケル實施地域ハ左ノ如シ（沿海省ハ別ニ之ヲ定ム）

- 1 上海市特別市

崑山	北橋	嘉定	練西
吳江	崑山	常熟	武進
嘉興	滄浦	金山	鎮江
蘇州	海門	江蘇	泰縣
無錫	海鹽	海鹽	海鹽
- 2 浙江省

嘉興	海鹽	海鹽	海鹽
嘉興	海鹽	海鹽	海鹽
- 3 安徽省

海鹽	海鹽	海鹽	海鹽
海鹽	海鹽	海鹽	海鹽
- 4 南京市特別市

海鹽	海鹽	海鹽	海鹽
海鹽	海鹽	海鹽	海鹽

農業增產ノ主要作物ノ種類ハ左ノ如シ

一、食糧作物ニ屬スルモノハ、粟、黍、大豆、(穀)、豆、甘藷、特ニ米、麥

極
秘

昭和十九年四月二日

昭和十九年度北支炭礦資材勞務食糧並ニ炭價事情

大 東 亞 省

昭和十九年度北支蒙疆炭礦設備擴充計画表

地域	炭礦名	坑名	出炭計画(單位千噸)		十九年度同 所定噸量割当量	十九年度 出炭見込
			十八年度	十九年度		
北支蒙疆	大同	同保	四六〇	四四〇	四四〇	四四〇
		裕豐	三四〇	三七〇	三五〇	三四〇
		永寶莊	四六〇	四六〇	四六〇	四六〇
		同家梁	四〇〇	四五〇	五〇〇	四〇〇
		八寶	一六〇	三〇〇	三五〇	一八〇
		白洞	六三〇	七〇〇	八〇〇	六三〇
		寶藏	二五〇	三五〇	四〇〇	二五〇
		雁崖	一〇	一〇	三五〇	一〇
		老史溝	一〇	三〇	五〇	一〇
		口泉	一〇	三〇	五〇	一〇
計	二七〇〇	三三〇〇	三九〇〇	二七〇〇		
北支蒙疆	大同	大河溝	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇
		台案關	一五〇	五〇	一〇〇	一五〇
		山流炭	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
		興隆莊	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
		寶水	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
		手選機	一〇	一〇	一〇	一〇
		赤茶	一〇	一〇	一〇	一〇
		新泰	一〇	一〇	一〇	一〇
		第二堅坑	一〇	一〇	一〇	一〇
		八斗斜坑	一〇	一〇	一〇	一〇
計	二七〇〇	三三〇〇	三九〇〇	二七〇〇		
北支蒙疆	大同	永固	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
		永固	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
		永固	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
		永固	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
		永固	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
		永固	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
		永固	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
		永固	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
		永固	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
		永固	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
計	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇		



地域	炭種	設備種類	出力	出炭計		前年度同月	十九年度																	
				西(單位千噸)	二十一																			
北支	磁	西谷開発	年六〇万瓩	〇	一〇〇	一七五	〇																	
				焦作開発	年七〇万瓩	五〇	七〇	八二	〇															
						常口開発	年一四〇万瓩	二〇	一四〇	一五三	〇													
								陽泉水洗機	毎時一〇瓩	一	一七九	〇	〇											
										積込設備	一日七千瓩	一	七二	〇	〇									
												開	豫定置開発	年三〇万瓩	〇	三〇	〇	〇						
															馬家溝開発	年三〇万瓩	〇	三〇	八〇	〇				
																	罐室開発	年三〇万瓩	二〇	三〇	一〇	〇		
																			運電線	年三〇万瓩	〇	三〇	〇	〇
																					深	第二料坑	年二五万瓩	六〇
新坑	年五〇万瓩	四〇	五〇																					八〇
		湯陰引込線	二六并(一〇〇)	〇	八九																			〇
				富家灘發電	新一五〇kW(三〇)	七二四	二一三〇																	〇
						炭磁計	年三〇万瓩	七二四	二一三〇															〇
								兼燕線運炭線	四四并	三二七	〇													〇
										黑山線	二并	一六	二二八	〇										〇
												連雲港河成設備	増設六万瓩	九〇	四八〇	〇								〇
														青島港	同	二四八	二〇〇	〇						〇
																塘沽新港	同	九一七	四〇〇	〇				〇
																		鐵道計	年三〇万瓩	五四九五	一三〇八	〇	〇	
北支合計	年三〇万瓩																			三四五八〇	六四四七	〇	〇	



昭和十九年度北支蒙疆炭維持用鋼材需給表

炭名	十九年度出炭目録(千吨)	鋼材所要量(千吨)	鋼材供給量(千吨)	十九年度出炭目録(千吨)	鋼材供給量(千吨)
大同	三三〇〇	三三三九	一六	三三〇〇	三三三九
井陘	一〇五〇	一三三九	十四	一〇五〇	一三三九
正豐	四五〇	六六八	一三五	四五〇	六六八
大河	五五〇	七五九	一七	五五〇	七五九
石門	一	一二六	一六	一	一二六
淄川	一八五〇	六六八	〇九	一八五〇	六六八
博山	一八五〇	六六八	〇九	一八五〇	六六八
坊子	一五〇	一四三	〇八	一五〇	一四三
中興	二五五〇	一四八	〇五	二五五〇	一四八
華資	三〇〇	七二八	一四	三〇〇	七二八
赤柴	三〇〇	五九四	〇七	三〇〇	五九四
新泰	五五〇	一五〇	二七	五五〇	一五〇
柘川	五五〇	四〇四	〇八	五五〇	四〇四
磁縣	七五〇	三七〇	〇六	七五〇	三七〇
焦作	一五〇	六七〇	一五	一五〇	六七〇
湯泉	一四〇	二二八	一	一四〇	二二八
壽陽	二〇〇	一八四	〇五	二〇〇	一八四
西家	四〇〇	三九一	〇九	四〇〇	三九一
新嶺	一五〇	七六	〇五	一五〇	七六
開原	七〇〇	五二六	〇八	七〇〇	五二六
孤山	五〇	二〇	〇一	五〇	二〇
萊蕪	五五〇	一〇	〇一	五五〇	一〇
門河	五五〇	三四	〇一	五五〇	三四
地東	二〇〇	一二〇	〇一	二〇〇	一二〇
野台	一〇〇	六〇	〇一	一〇〇	六〇
大南	一五〇	五〇	〇一	一五〇	五〇
川南	一四〇	五一	〇一	一四〇	五一
利豐	一四〇	八〇	〇一	一四〇	八〇
長城	二〇〇	八〇	〇一	二〇〇	八〇
柳江	二五〇	七〇	〇一	二五〇	七〇
湯陰	二〇〇	七〇	〇一	二〇〇	七〇
八寶山	一〇〇	三〇	〇一	一〇〇	三〇
北支計	二六五八	三三六二	〇九	二六五八	三三六二



昭和十九年度北支坑木需給表

前年度繰越	現地收買	對滿	對内地	對朝鮮	計	十九年度需要量	二十年度繰越
1	600	450	1400		3450	1850 以炭核 1790	600
1	600	205	120		925		1
431	700	18	286	574	2010		
431	280	12	174	取消要求			

(單位千石)

昭和十九年度北支炭礦坑本需給並出炭見込表

炭 礦 名	出炭目標	平常使用量	要 量	割當見込	備 考	出炭見込
開 濠 炭 礦	七〇〇〇	五五	五七〇〇〇	三五五	現地材	五、四〇〇
山 東 磁 業	五二五〇	五〇	一九三、七五二	一一〇	現地材	二、〇〇〇
中 興 炭 礦	二八五〇	七五	二、三九〇三	一五〇		一、六六六
大 汶 口	八〇〇	七五	一、四三、三九四	五〇		五五六
新 泰	五五〇	六〇	八、三四九六	三〇		四一七
新 泉	五〇〇	六〇	六〇、〇〇〇	二〇		二七八
井 陘	一、〇五〇	六〇	一、八〇、三三八	二〇〇		一、三三七
磁 縣	七五〇	四五	四七、七七一	二〇		三、七〇
焦 作	一、一五〇	六〇	一〇、一三〇〇	三〇		四一六
山 西	二、〇〇〇	三五	八五、〇三〇	三〇		七、一四
山 西 西 崖 業	五〇〇	五八	四二、一二六	二〇		二、八七
日 鉄 磁 業	一一〇	九〇	九、一六			
湯 陰 炭 礦	二〇〇	五〇	一、四三、四〇			
門 頭 溝 煤 礦	五五〇	三〇	一、三、八〇			
利 豐	一四〇	五〇	八、八二〇			
長 城 炭 礦	二〇〇	二六	九、八〇〇			
日 本	七五〇	四〇	三、六、六三〇			
野 上 磁 業	一〇〇	四五	三、〇〇〇			
川 南 工 業	八〇	一〇	一、八五〇			
日 本 磁 業	一五〇	六〇	二、八〇〇			
坨 清 高 絨	二〇〇					
八 寶 山 炭 礦	一〇〇	七〇	二、八九〇			
計	二六、五八〇	平均 五七	一、七九〇、一三三	九二五		一、三、五〇〇

昭和十九年度北支炭礦所要勞工確保計画（案）（未決定）
（昭二八二二ニ）

第一 方針

決戦第三年ニ即應スル昭和十九年度北支炭生産目標ノ完遂ヲ期ス為ニ必要ナル勞工約三〇〇千入ノ確保、定着ヲ圖ル為左記要領ニ依リ各炭礦ヲシテ積極的工作ヲ展開實施セシム

第二 要領

一 所要募集工人

(一) 昭和十九年度所要工人

二九八、五九〇人

(イ) 北支炭昭和十九年度生産目標(除蒙疆)

二六五、八〇千名

(ロ) 右ニ要スル稼働工人

二一六、二二〇人

(ハ) 右ニ要スル在籍工人(稼働工人ハ在籍ノ七三%ニヨリ逆算ス)

二九八、五九〇人

(二) 要増加工人

一五〇、九四〇人

(イ) 現在籍工人(平均)ハ

一四七、六五〇人ナリ以テ

差引要増加工人

一五〇、九四〇人

(三) 炭礦地外ヨリ要募集工人

(イ) 周辺鄉村募集餘力

四四、四五〇人

(ロ) 生産増加ニ要スル募集工人

一〇六、四九〇人

(ハ) 但シ右ニ對スル各炭礦特殊事情並ニ餘力等ヲ勘案査定スルトキハ

七一、八三〇人

(ニ) 炭礦周辺地外ヨリ要募集工人

六七、八〇人

二 募集対策

工人募集ニ関シテハ極力之ガ移動防止、定着工作ヲ主眼トシテ募集人員ノ減少ト募集費ノ遞減ヲ圖ラシムルコト勿論ナルモ農繁期其ノ他ニ於ケル工人ノ激減並ニ増産ニ對スル増加工人及移動工人ニ對シ各炭礦ヲシテ今後更ニ計画的並ニ積極的工作ヲ圖ラシム

(1) 各炭礦周辺地區善隣工作ノ徹底ニヨリ炭礦出役ノ自発的出役ヲ確實ニスル如ク工作セシム

(2) 更ニ周辺地區ヨリノ募集不足量ニ農繁期ニ於ケル工人不足ニ對シ之ガ充足ノ計畫性ヲ保持スル為各炭礦ニ對シ勞工使出特定縣ヲ設定シ、並ニ勞工協會勞工供出體制確立要綱ニ導キ、勞工協會、新設會、縣市公署ト緊密ナル運繋ヲモトニ之ガ募集ノ完徹ヲ期シシム



昭和十九年度北支炭礦所要工人募集對策計畫表(案)

炭 礦	十九年度 生產目標 (千噸)	全工人 當出炭 量(噸)	所 需 動 工 人 (%)	出 役 率 (%)	所 在 籍 工 人 (人)	現 在 在 籍 工 人 (平均)(人)	要 增 加 在 籍 工 人 (人)	固 定 部 落 募 集 餘 力 (平均現職者20%)	外 地 日 常 增 分 募 集 數 (人)	外 地 募 集 要 員 查 定 數 (人)	日 解 率	後 勤 日 要 補 充 員 數 (人)
中	興	2,850	50	17,000	68	25,000	13,480	11,520	4,050	7,470	北支炭礦平均	1,020
新	泉	500	29	5,190	59	8,790	3,000	5,790	900	4,880	北支炭礦平均	310
大	泉	750	36	6,320	72	8,770	4,300	4,470	1,350	2,920	北支炭礦平均	370
心	系	550	36	4,550	65	6,990	2,100	4,890	630	4,260	北支炭礦平均	290
井	豐	500	20	7,580	74	10,240	6,830	3,410	2,050	1,360	北支炭礦平均	450
經	赤	300	17	5,510	57	9,070	3,340	6,330	1,000	5,330	北支炭礦平均	330
小	計	800									北支炭礦平均	480
山	井	1,050	39	8,160	65	12,550	5,590	6,960	1,680	5,280	北支炭礦平均	210
焦	正	450	38	3,590	6	5,610	4,270	1,340	1,280	060	北支炭礦平均	340
山	河	500	26	5,750	0	8,210	3,590	4,620	1,080	3,540	北支炭礦平均	340
西	小	2,000									北支炭礦平均	3,000
山	東	5,250	31	54,350	71	72,320	26,290	46,030	7,890	38,140	河南地區內募集可能	(1,050)
西	作	1,150	19	17,630	69	25,570	10,830	14,740	3,250	11,490	山西地區募集	(660)
山	陽	1,400	38	11,260	69	16,320	4,910	11,410	1,480	9,930	山西地區募集	(660)
西	富	200	52	1,170	57	2,050	1,200	850	360	490	山西地區募集	(160)
山	家	400	46	2,600	71	3,680	1,530	2,130	460	1,670	山西地區募集	(180)
西	計	2,000									山西地區募集	(180)
山	西	450	39	3,500	71	4,930	2,500	2,430	750	1,680	山西地區募集	(180)
西	野	150	57	800	80	1,000	800	200	240	-	-	(180)
山	小	600									-	(180)
關	灤	7,000	44	48,490	85	57,050	41,700	15,350	12,600	2,750	閩滄地區內募集可能	(2,300)
門	頭	550	32	5,050	83	6,090	3,920	2,170	1,180	990	-	(300)
長	城	200	45	1,350	67	2,010	1,090	940	320	620	-	(180)
利	豐	140	33	1,290	75	1,720	1,030	690	310	380	-	(180)
瀋	重	200	-	690	96	720	390	330	120	210	-	(180)
瀋	盛	100	42	620	71	880	520	360	160	200	-	(180)
孤	山	50	14	1,050	87	1,200	910	290	280	010	-	(180)
美	燕	60	20	960	77	1,200	380	820	120	700	-	(180)
川	南	80	33	750	87	930	740	090	230	-	-	(180)
湯	陰	200	-	480	85	560	330	230	100	130	-	(180)
大	台	150	51	880	77	1,140	580	560	180	380	-	(180)
八	賈	100	43	690	62	990	260	730	080	650	-	(180)
井	江	250	38	1,970	78	2,520	1,060	1,460	320	1,140	-	(180)
總	計	25,580 (計海外1,020)	36	216,220	72	298,590	147,650	150,940	44,550	106,670	71,830	6,780

炭礦名	要募集工人数	特定数	供出希望特定縣	希望縣査定(案)
成興	(B) 7,500人 (A) 10,200人	五	輝縣、湯陰縣、汲縣、潞縣、澤縣	汶上、寧縣、滕縣
中泉	(B) 3,000人 (A) 3,100人	二	銅山、滕縣、嶧縣	銅山、宿縣
磁縣	(B) 2,000人 (A) 3,700人	二	磁縣、邯鄲、成安、武安、彰德	磁縣、邯鄲、成安、鹽山
新泰	(B) 2,700人 (A) 3,600人	三	新泰、蒙陰、泰安、臨沂、濰縣、德平	臨沂、濰縣、德平
莘	(B) 1,300人 (A) 4,500人	二	莘、陽、泰安、泗水、費縣、即墨、萊蕪	長清、泰安、寧陽、萊蕪
赤柴	(B) 5,300人 (A) 3,300人	三	青州、道、昌樂	寧陽、萊蕪
井陘	(B) 4,800人 (A) 4,800人	三	沙河、民安、刑台、平街、威縣、廣宗、清河、鉅馬、任	大名、沙河
正豐	(B) 2,000人 (A) 2,100人	一	內邱、臨城、大名、固周、德縣、南樂、平山、獲鹿	平山、彰德
大河溝	(B) 3,500人 (A) 3,400人	二	魏澤、臨澤、清豐	
山東	(B) 3,800人 (A) 3,000人	八	臨川、博山、章邱、青州、道縣、滋陽、濟寧、濰縣、濰城、范	臨川、博山、章邱、益都、濰城、濰縣、濰城、觀城
焦作	(B) 1,100人 (A) 1,400人	一	河南地區ニ於テ募集可能	
陽泉	(B) 1,500人 (A) 1,600人	二	山西地區ニ於テ募集可能	
開灤	(B) 1,200人 (A) 1,200人	一	開灤地區内ニ於テ募集可能	

備考
 (1) 地區外募集要工人
 (B) 毎月移動補充員数
 (2) 本表ハ地區外募集要手配重要炭礦ノミヲ列擧ス



昭和十九年度北支食糧需給事情
 北支ニ於ケル昭和十九年度食糧需給豫想左ノ如シ

要配給	給量	配給	計	備考
特需	一五四	滿洲雜穀	三五〇	(1) 重要産業ノ内製別表参照
重要産業	三五五	蒙疆雜穀	八〇	(2) 滿洲及蒙疆雜穀ノ豆類
建設	一二	中支及日本麵粉	七〇	(3) 蒙疆中支ヨリノ移入量
棉作	六〇	南方米	五〇	(4) 未確定
邦人食米	二〇	地場麵粉及雜穀	五〇	(5) 北支
領事館特配	六六			
米混用	二四			
小計	六九一	小計	六〇〇	
華側軍官	一五〇	地場麵粉及雜穀	四〇〇	
同主要都市	八〇〇			
小計	九五〇	小計	四〇〇	
合計	一六四一	合計	一〇〇〇	

一 即チ華側要配給量ニ對シテハ極度ニ配給ヲ減ジ不足量ハ之ヲ自由購入ニ放任スルトスルモ、邦人側需要ニ對シ一五%強ノ不足ヲ生ズ

二 重要産業要配給量ニ関シテハ家族用食糧ハ概テ所要量ノ二分ノ一程度ヲ見込ミタルモノニシテ前記不足量ヲ圧縮スルトキハ家族ノ食糧ハ全面的ニ配給ヲ行ハズ、且ツ重労働者ニ対スル増量モ不可能トナルベシ

三 尚十九年度ニ於テハ食糧ノ質ノ問題即チ米及麵粉ノ不足、雜穀特ニ大豆ノ相對的增加ノ傾向ハ食糧対策上重視スベキ矣ニシテ前記配給計畫計上數量ノ量ノ確保ト共ニ特ニ考慮ヲ要ス



民國三十三年度農業增進豫算 三、四、一八

一 政府關係增進豫算
糧食部

- 內譯 主要食糧試驗研究費 三〇九〇五二五〇圓
 - 採種事業補助費 一三二七五八〇〇
 - 農業改進實驗區事業補助費 四〇〇〇〇〇〇
 - 血清製造施設費 一、五〇〇〇〇〇〇 (工讀團委託)
 - 農村指導人員訓練費 一、三二八、四三三
 - 農產推進事務費 一、五〇〇〇〇〇〇
- 2 社會福利部
- 內譯 棉試驗研究施設費 一、〇四九、七二五〇
 - 麻試驗研究施設費 一、五〇〇、八〇〇
 - 蠶絲試驗研究施設費 五八六、三三三
 - 棉作技術人員訓練費 一、四八六、八九〇

在中華民國日本大使館

18. 5. 50,000 木村納

推進增進事務費

- 4 合作事業委員會 一、〇〇〇、〇〇〇圓
 - 內譯 合作社農業指導員訓練費 二八〇、〇〇〇
 - 推進增進事務費 一、〇〇〇、〇〇〇
 - 5 農業增進策進委員會 一、五八五、〇〇〇
 - 內譯 增進推進事務費 五〇〇、〇〇〇
 - 獎勵費 一、〇八五、〇〇〇
 - 6 省市府ニ對スル補助金 一、五〇〇、〇〇〇
 - 內譯 農業改進實驗區 一、〇〇〇、〇〇〇
 - 抽訓農業機關技術人員訓練費 三、一〇〇、〇〇〇
 - 7 合作社ニ對スル補助金 一、一九九、〇〇〇
 - 棉作推廣費 三、〇〇〇、〇〇〇
 - 8 淮海省補助費 八、一八六、一三三
 - 9 豫備 五、二二〇、六三六
 - 合計 二、四〇〇、〇〇〇
- (內使用決定七、七九七、〇〇〇) (別紙參照)

在中華民國日本大使館

18. 5. 50,000 木村納



民國三十三年農業增產撥款

三三 四 一八

一 政府關係增產撥款

1 糧食部

內譯 主要食糧試驗研究費

一、二一七、二八〇〇

採種事業補助費

一、〇〇〇、〇〇〇

農業改進實施區農業補助費

一、五〇〇、〇〇〇 (丁農補助費)

血清製造設備費

一、三二八、二四三〇

農村指導人員訓練費

二、五〇〇、〇〇〇

邊產增進專務費

一、〇〇〇、〇〇〇

2 社會福利部

3 實業部

內譯 棉試驗研究施設費

一、〇四九、七三〇〇圓

麻試驗研究施設費

一、五〇〇、〇〇〇

蠶絲試驗研究施設費

五、八六二、三〇〇

棉作技術人員訓練費

一、四八六、八九〇

絲綢增產專務費

一、〇〇〇、〇〇〇

4 合作事業委員會

內譯 合作社農業指導員訓練費

二、八〇〇、〇〇〇

推進增產專務費

一、〇〇〇、〇〇〇

5 農林部

內譯 增產推進專務費

五、〇〇〇、〇〇〇

獎勵費

一、〇八五、〇〇〇

0062

民國三十三年度農業增產關係各機關別主要豫算

6 省市政府一級スル補助金	一五、〇〇〇、〇〇〇
四 農林省進管會	一、〇〇〇、〇〇〇
推卸農業機關技術人員訓練費	一、〇〇〇、〇〇〇
7 合作司ニ付スル補助金	一、九〇〇、〇〇〇
(内 實定 八、九〇〇、〇〇〇)	
(内 實定 七、三〇〇、〇〇〇)	
(別紙参照)	
補作進管	三、〇〇〇、〇〇〇
3 海商會補助費	八、一〇〇、〇〇〇
9 總 備	五、二〇〇、〇〇〇
合 計	二五、〇〇〇、〇〇〇
農林省進管會總豫算	二五、〇〇〇、〇〇〇圓
(一) 合作事業委員會	二、三〇〇、〇〇〇
農林省進管會總豫算	二、〇〇〇、〇〇〇
合作科農業指導員訓練費	一、八〇〇、〇〇〇
進管會進管費	一、〇〇〇、〇〇〇
(二) 糧食	一、三三三、三三三
府 廳	六、九〇〇、五三〇
主要農業增產施設費	六、九〇〇、五三〇
技術人員訓練費	一、九〇〇、〇〇〇

進進増産事務費 100,000.00圓	(三) 業 部 70,257.240	進進増産事務費 100,000.00圓	(五) 市會福利部 25,500.00圓
内 譯 雜種及其ノ他時田農產物増産施設費 5,977.0350 綿作技術人員訓練費 1,486.890 農器買入れ費 60,000.00 休耕地利用促進費 20,000.00 堆積増産事務費 10,000.00	内 譯 排水施設改良費 9,000.00	内 譯 農民福利施設助成費 25,500.00 (六) 農業増産増進委員会 15,850.00	内 譯 獎 勵 費 10,800.00 進進増産事務費 5,000.00
(七) 海河省補助費 81,861.340	八 豫 備 220,639.60	(八) 豫 備 220,639.60	





昭和十九年奉小麥雜穀改良事業管理方針第六

改良員俸給費金

一六三課
針大綱

一、救済資金

(一) 種族ヨリ種北合作産物改良會社中左ニ依リ融資スルモノトス

(二) 種族ヨリ種北合作産物改良會社ニ對スル融資

1. 融資形式 手形貸付

2. 融資限度 各省ノ割合数量ニ準テ出納状況並ニ該産物

3. 利率 年五分

(三) 種北合作産物改良會社ヨリ其ノ下級組織ニ對スル融資

1. 融資形式 陸揚貸付

2. 利率 融資手形融資、貸入利率ヲ年五分五厘トシ中間

3. 利率 陸揚ノ利率ヲ別ムルコト

(四) 種北合作産物改良會社ノ販賣シタルモノノ可及的額ニ地方産物改良會社員

(又ハ現行採選社職員以下同シ)ニシテ別取ラシメ資金ノ回轉ヲ

速ヤカナラシムル豫考慮スヘキモノトス

(五) 合作産物改良會ニ對シテ販賣ノ困難ナル地區ニ於テハ地方産物改良會委員

カ販賣スルコトヲ以テ同會委員ニ對シテ融資スルモノトス(引

二、引取資金

(一) 引取資金ハ左ニ依リ融資スルモノトス

(二) 融資方法 地方食糧公社(又ハ其ノ代行機関)ヲ派出人、引

受人、地方産物改良會委員ヲ受取人トスル當管手形

ノ發行ニ依テ引取クコト

(三) 融資銀行 地方産物改良會委員ヨリ日本銀行に對シテ

各産物改良會分ハ該國銀行ニ對テ融資スルコト

(四) 融資限度 各産物改良會委員、引取額當管手形並ニ該産物改良會委員ヨリ

別定ニ依テ該國銀行ニ對シテ

融資スルコト

(一) 手形割引 年五分五厘

(二) 手形期間 最長一箇月トシ必要ノ場合切替ヲ認ムルコト

(三) 地方農業公會會員カ聯合社聯合會ヨリ引取リタルモノハ可及的
速ニ中央又ハ地方食糧公社ニ納入セシメ資金ノ回轉ヲ速ヤカナラ
シムルヲ考慮スヘキモノトス

(四) 省合作社聯合會カ引取リタル場合之カ所要資金ハ農業公會
會員ノ場合ニ準シ融資スルモノトス

三 加工業者資金

(一) 地方食糧公社ノ所屬資金ハ中央食糧公社ヨリ融資スルコト
(二) 中央食糧公社ノ所屬資金ハ中央食糧公社ヨリ、借入又ハ食糧公社債券ノ發
行ニ依リ調達スルコト

經濟

(昭一五五八 情、調)

蚌埠地區ニ於ケル雜穀蒐買ノ實情報告ヲ中心トシタ見返物資論(山崎經濟研究所赤津南京駐在員ノ報告要旨)

見返物資カ現在如何ナル意味ヲ以テ實際ニ運用サレテ居ルカト云ヘハ次ノ様ナ事情ニナツテ居ル。

見返物資ノ本來ノ性質ハ土産物資蒐買ノ爲ノ交換物資、即チ蒐買手段テアルヘキナリテアルカ。實際ハ蒐買業者カ商統會ノ統制下ニアル綿糸布、燐寸、石鹼等ヲ見返物資トシテ供給ヲ受ケルト彼等ハ之ヲ直チニ市中ニ放出シテ之ヲ資金化シ、供給價格ト市中價格トノ價差ニ依リ蒐買上ノ損失ヲモ之ニ依リ「カバー」スルトイフ行キ方ヲ採ツテ居ル。斯ノ様ニシテ見返物資ハ本來ノ效用ヲ全ク果サス、業者ノ資金調達手段乃至ハ損失補償手段トイフ結果ニナツテ居ル。トゴロカ見返物資ノ供給カ極メテ圓滑ヲ缺ク爲ニ之ヲ資金化シテ運用スルニ於テモ業者ノ意ノ如クナラス、資金手

先存件ニ關シテハ山崎氏ノ調査ニ依リ中野清國報社及便會等ノ報告ノ要旨ヲ採リテ取扱ヘス。右等ノ報告ニ依リ

18, 5, 50,000 本材納

段トシテモ十分ナル動キヲ發揮シテ居ナト實狀ニナツテ居ル。

以上ハ何處ノ蒐買地域ニ於テモ何レノ物資蒐買ノ場合ニモ大概同様ナル實情テアルカ、之ヲ蚌埠ニ於ケル最近ノ雜穀蒐買ニ例ヲトツテ見ル。

昨年ノ十一月蚌埠ノ日華共同委員會(同地ノ買付業者ノ團體)ト油糧統制委員會トノ間ニ蒐買契約カ成立シ、雜穀三九、〇〇〇屯ノ蒐買量ニ對シ見返物資ノ供給カ左ノ通り約定サレタ。

燐寸	一、六九〇箱
石鹼	五二五箱
蠟燭	三、一〇〇箱
煙草	九〇〇箱
綿糸	四四四捆
綿布	六六〇捆
砂糖	二、〇〇〇擔

18, 5, 50,000 本材納

在中華民國日本大使館

トコロガ昨年十一月ヨリ現在ニ至ルマテ供給ノ通告アリタル分ハ
約定數量ヨリ少ナク次ノ通りニナツテ居ル。

燐寸	九〇〇箱
石鹼	二八〇箱
蠟燭	九五〇箱
綿糸布	五九〇箱
砂糖	一、〇五〇擔

之カ實際ニ供給ヲ受ケタ數量ハ更ニ減リ次ノ様ナ數字ニナツテ居ル。

燐寸	四四〇箱
石鹼	一四〇箱
蠟燭	八七九箱
煙草	六七個半
綿糸布	一三六箱
砂糖	三六〇擔

在中華民國日本大使館

18, 5, 50,000 本村納

供給數量カ斯様ニ減ラサレタノミナラス、價格ニ於テモ契約價格ハ無視サレ供給價格ハ夫レヨリモ相當高値ニナリタ爲、共同委員會ノ支那側「メンバー」ハ引受ヲ忌避シ結局日本側業者カ餘儀ナク全部背負ヒ込シタト云フ結果ニモナツタノテアル。契約價格ト昨年十二月ニ於ケル供給價格ノ開キヲ二、三ノ物資ニ付イテ見レハ次ノ通りテアル

品目	契約單價	實際引渡單價
燐寸	一、〇〇〇元	一、二四〇元
蠟燭	八〇〇元	八三四元
砂糖	一、〇〇〇元	一、一六二元

一方蒐買物資ノ市中相場ハ契約當時ヨリモ渺カラス騰貴シ本年二月二十五日現在ノ蚌埠相場ト「油糧」ニ對スル納入價格ヲ比較スレハ次ノ通りテアル。

在中華民國日本大使館

18, 5, 50,000 本村納

買物資	2月25日現在 蚌埠相場	納入價格
大豆 100キロ	2040 元	(920 元 970 "
綠豆 "	0	1000 "
綠豆 "	2040 "	900 "
高粱 "	1445 "	1125 "
高米 "	1400 "	1055 "
生仁 "	1700 "	2100 "
胡麻 "	4235 "	2300 "
江豆 "	5145 "	950 "
小豆 "	1400 "	1000 "
	1615 "	

在中華民國日本大使館

18, 5, 50,000 本材料

斯様ニ納入價格ト市中相場ノ差カ大キイ上ニ、其ノ爲ニ業者ノ蒙
ル蒐買上ノ損失ヲ補填スヘキ見返物資ノ供給ハ圓滑ヲ缺クト云フ有
様テ夫レカ蒐買上ノ一ツノ障碍ニナツタカ更ニ業者ハ蒐買ノ過程ニ
於テモ次ノ様ナ事情ノ爲ニ資金ノ手詰リヲ來シ、蒐買ヲ順調ニ繼續
シ得ナイ苦境ニ立至ツタ。即チ物資ノ出廻期ニ於テ配車ノ不圓滑ノ
爲折角獲得シタ物資ヲ滞貨サセルコトニナツタノテアルカ「油糧」
トノ決済ハ貨車積ヲ以テ爲サレル爲ニ決済カオクレルコトニナリ、
其ノ結果業者ハ決済關係カラモ資金ノ手詰リニ遇ヒ、資金ノ供給サ
ヘアレハ、繼ラテモ買付ケ出來ルトイフ好期ヲ空シク逸スルトイフ
結果ニナツタ

斯クシテ三九、〇〇〇屯ノ豫定蒐買量ニ對シ三月末日ノ期限迄ノ
蒐買量ハ約二四、〇〇〇屯トイフ成績テアル。一註買付契約ヲ終ヘ
油糧委員會ヘノ登録済分ハ二五、五七〇屯其ノ中驗收済分ハ二三、
二八二屯テアル。

18, 5, 50,000 本材料

在中華民國日本大使館

E-0042

0059

以上ノ様ナ實情ヨリ見テ、見返物資ハ資金手段トシテモ十分ナ效果ヲ發揮シテ居ナイノテアツテ、之ノ代リニ資金ヲ以テシ、最モ必要トスル時期ニ之ヲ潤澤ニ供給シテヤリ、且納入價格ニ市中相場ニ對應スル様ナ伸縮性ヲ與エテ、蒐買條件ヲ有利ニシテヤルナラハ、見返物資ハ原則トシテ要ラストイフコトニ歸着スルノテアル。茲ニ原則トシテト言フノハ、對敵取引ノ場合トカ或ハ蚌埠ノ様ナ物資ノ豐富ナ大市場テナク、奧地ノ小市場ニ於ケル蒐買ノ場合等ニ於テ、ソノ便ヒ方次第ニ依ツテハ效果ヲ收メル場合カアルカラテアル即チ此ノ種ノ場合取引ノ相手方乃至ハ其ノ地域カ最モ必要トシテ居ル物資ヲ見定メテ之ヲ有效ニ供給スル方法ヲ探ルナラハ、見返物資必シモ無駄テハナイト言フコトカ出來、從ツテ個々ノ場合ノ特殊性ニ應シテ之ヲ合理的ニ用フルコトヲ考ヘルヘキテアル。

18. 5. 50,000 本村結

在中華民國日本大使館

E-0042

秘

國民政府對軍費交付之圖表 三三、五、二四

種目	內釋	交付月日	交付事由	現金交付先
一、增產對策費 三〇〇〇	再	四月十三日	中央農業增產補助費トシテ	糧食部長
二、六〇〇		四月十三日	地方地區農業增產補助費トシテ	華北政務委員會
		三月十一日	蒙疆地區農業增產補助費トシテ	大連錦州口事務所
三、大運河改修費 一〇〇〇		三月十一日	三月十一日交付済	治理運河段
四、新國民運動費 三〇〇		三月十一日	三月十一日交付済	新國民運動促進委員會
五、文化救恤費 七五〇		三月十一日	戒煙助成費トシテ	上海戒煙病院
			痲病院助成費トシテ	蘇州痲病院
			中國郵政差成費トシテ	陵部隊
			遺部旅公署之應給費トシテ	汪主席秘書室
			廢除工作之清地指導費トシテ	
六、治河費 一〇〇			國防工兵隊指導費トシテ	登部隊
七、〇〇				

大計 六、〇〇〇 万圓
 全國經濟委員會
 計 二、五〇〇 万圓

國民政府ニ對シテ軍資金交付ニ關スル件

三三 五十四

種目	内 容	交付月日	交付事由	現金交付先
一 増産對策費	三、〇〇〇 万圓	四月十三日	中文書業増産助成費トシ	糧食部長
二 六〇〇 万圓	四〇〇	三月二十五日	北支前線農業増産助成費トシ	華北政務委員會
	二〇〇	三月十一日	冀瀋地區農業増産助成費トシ	大使館張家口事務所
三 新國民運動費	一、〇〇〇	三月十一日	五〇〇 万圓交付済	治理運河 氏
四 文化救濟費	七五〇 万圓		戒煙助成費トシテ	上海戒煙病院
	二〇〇		二〇〇 万圓交付済	蘇州癩病院
	五〇		癩病院助成費トシテ	
五 治安 費	一、〇〇〇 万圓		中朝船員養成費トシテ	曉 部 隊
	四〇〇		一〇〇 万圓交付済	
	五〇〇		遼瀋記念ニ際シテ與賞費トシテ	汪主席秘書室
	四〇〇		四〇〇 万圓交付済	
	一〇〇		愛路工作及清郷指導費トシテ	
	四〇〇		愛路丁兵隊指導費トシテ	登 部 隊
	一〇〇		一〇〇 万圓交付済	
六 豫備費	三五〇			
計	六〇〇〇 万圓		計 二五〇〇 万圓	



蘇浙皖三省食糧維持

民國三十三年蘇浙皖三省食糧維持委員會報告

一、原 則

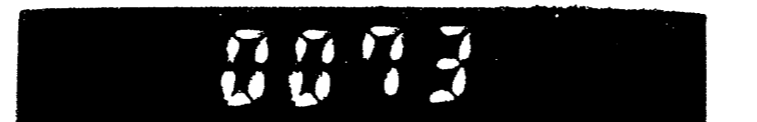
一、六、行政區域整理

一、行政區域整理三案（蘇浙皖三省食糧維持委員會）
 （以下米統區、高糧區）ニテ統一辦理シ以テ完備ノ期ス
 二、各地地方自治機關及日本團ニテ統一辦理シ以テ完備ノ期ス
 三、各地不產採辦區向該區、採辦工作ニテ完備ノ期ス

四、各地米統區、高糧區、採辦工作ニテ完備ノ期ス
 五、各地米統區、高糧區、採辦工作ニテ完備ノ期ス

- 1. 江蘇省 松江 金山 寶山 太倉 崑山 吳江 常熟
- 2. 安徽省 蕪湖 宣城 郎溪 丹陽 宜興 溧陽
- 3. 浙江省 嘉善 嘉興 平湖
- 4. 上海特別市 上海
- 5. 蘇浙皖三省食糧維持委員會

蘇浙皖三省食糧維持委員會報告
 一、行政區域整理
 二、各地地方自治機關及日本團
 三、各地不產採辦區向該區
 四、各地米統區、高糧區、採辦工作
 五、各地米統區、高糧區、採辦工作
 六、米統區、高糧區、採辦工作



採辦米穀ノ左記精製ニ供給スルノ原則トス

- 1. 日本海軍用 二〇〇〇〇〇噸
- 2. 日本海軍用 二〇〇〇〇〇噸
- 3. 中央直轄軍用 三〇〇〇〇〇噸
- 4. 海軍直轄軍用 九〇〇〇〇噸
- 5. 上海白米(公役) 合々公認買込 二二〇〇〇〇噸
- 6. 上海白米(公役) 合々公認買込 二二〇〇〇〇噸

前記数量ニシテ採辦不足トキハ中央直轄軍用ニ優先的供給スヘキトス

第二 採辦辦法

一、採買方式、分糧團長官官定買辦ニ依リテ採買スルコトヲ得但シ前項施行區域ノ米消費ニ於テ各主管地方區域ト合同協議、上之ヲ規定ス

二、分糧團採買方法左、如シ

- 甲、行政機關ニ於テ相當分糧工作ヲ開始シ同時ニ採辦團ヲ採辦トシ
- 乙、米統籌採辦團ハ相當分糧團指定區域ニ在リテハ出來得ル限り農兵代表(或ハ中農合作組織)ヲ採辦團組織スヘキトス
- 丙、採辦團長ハ原則上左記事項ヲ採リ採辦決定スヘキトス
- 分糧團長ハ(採買)單宜生産團長ヲ採シタリ(或ハ)人口一八ノ年
- 採辦團長ヲ採シタリ(或ハ)人口一八ノ年
- 前記諸民ガ小作農ナキトキハ共同分糧團スルコトヲ得小作農ハ指定期限内ニ規定數量(地主分糧團ヲ含ム)ヲ完納スヘキトス
- 地主納付、余額三、分糧團長ニ送付ス
- 丁、前項採辦團長ハ米統籌ニ於テ各主管地方區域ト協議之ヲ決定ス
- 戊、農民、分糧團長、米統籌シテハ米統籌ノ責任ヲ以テ代表ス

七、政府ヲ代金、支拂及買取方法ニ關シテハ米統會決定、上行政院ニ報告ス

八、分擔額ニ依リ採辦ノ米價ハ本統會決定、倉庫ニ搬入後免額ニ減額ヲ完了シ且代金ヲ支拂フヘシ

九、前項米價ノ明渡日時刻該會等ノ所細規程ニ依リ米統會ニ於テ現地行政機關ト協議之ヲ決定ス

三、自由採買方法左ノ如シ
甲、行政機關ハ本會地區採辦以下條件、採買工作ニ關係スル限リ協助スヘキモノトス

乙、自由採買地區ニ於ケル成員以テ採買地所有權ヲ考慮シ適當決定スヘシ

四、採辦ニ當リテハ其ノ分擔額タルト自由採買額タルト論セズ一律ニ現金取引ノ原則トス(交換物等ヲ採用スル場合ハ採買額等ヲ含ム)
五、納入期(分ツテ二期トス)

甲、第一期

採辦開始ノ日ヨリ民國三十三年二月三十一日迄各地採辦同及採買額ハ最少採買本要額全數額ノ五分、總額ノ納入スヘキモノトス

乙、第二期
民國三十三年三月一日ヨリ同年四月三十日迄各地採辦同及採買額ハ前注ノ以テ本要額全數額ヲ完納スベキモノトス

一本

應力機關ノ簡素化ヲ謀リ且ニ優秀職員ヲ以テシ採辦ノ迅速推進ヲ期ス

片從來ノ採辦地ヲ改廢シ別ニ(蘇州、嘉興、揚州、南京、蕪湖)五地區採辦區ニ設ケ各該所轄地區ノ採辦ノ全責任ヲ擔當セシム
採辦區主任又ハ副主任ハ地方ノ有力者ニシテ威望アリ且ニ信用シ並



三 採辦商

米統會、前記ノ各米地區ニ在リテ若干ノ採辦商一校分子ニ選ケテ
採辦商ヲ採辦シ、米統會ニ採辦ス。採辦商ノ選定ニ
前記採辦商ノ資質採辦米ノ場ノ設備、運シ又、相當ノ資力及運去ノ
設備優良ナル者ヲ選任スヘキトス
前記採辦商、各地ニ於テ公會一組織シ且代表ニ選出シテ米統會ニ對
シ規定數量ヲ採辦シ並規定期間内ニ完納スヘキトス
必要ニ依リ米統會ハ別ニ收買場所ヲ設ケ直接採辦工作ヲ實施ス

第四 各地區辦事處擔任區域

一 蘇州地區辦事處

直轄一蘇州

吳江事務所一吳江

崑山事務所一崑山、常熟、大倉

無錫事務所一無錫、江陰

武進事務所一武進、宜興

鎮江事務所一鎮江、金壇、揚中、丹陽

松江事務所一松江、金山、青浦

南通事務所一南通、泰興、靖江、如皋、海門、啓東

二 嘉興地區辦事處

直轄一嘉興

嘉善事務所一嘉善

平湖事務所一平湖

三 杭州地區辦事處

直轄一杭州

富陽事務所一富陽

含山事務所一含山、和縣

蕭山地區辦事處



直轄 南京

句容專務所 句容

水壘務所 水

西陽州地高辦事處

直轄 揚州、嚴徵

高郵專務所 高郵

「註」事務所ハ實際上ノ必要ニ基キ隨時適當ニ之ヲ増減スルコトヲ得

第五 移動統制

一、米糧 移動ハ嚴重之ヲ統制スヘシ

統制辦法ハ米穀會ニ於テ制定シ行政院ニ報告シ公布施行ス

二、各地米商(精米工場ヲ含ム)ハ每月初前月ノ貯藏數量ヲ同業公會ニ

致告登記シ同業公會ハ毎月一回米統會ニ報告スベキモノトス

三、各地區ノ米行米店ノ精米工場及倉庫ハ米統會之ヲ統制管理スルコト

ヲ得

四、米糧 敵匪地區ヘノ流入ヲ防止スル爲現地關係機關及盟邦軍政當局

ヘ全面的協助ヲ爲スモノトス

第六 價格ノ規定及資金ノ準備

一、採辦價格ハ米穀ノ變劣ニ應シ並其ノ他ノ農産物及一般物價ト均衡ヲ

ラシムルヘキモノトシ米統會ニ於テ適當價格ヲ審定シ行政院ニ報告

ス

二、採辦價格ハ努メテ安定不変ナラシム但シ一般物價激變シ採購ニ影響

ヲ及ボヤルトキハ米統會ハ實情ヲ斟酌シテ隨時調整スルコトヲ得

三、納入價格ハ軍用米、特需米及民需米ノ三種ニ分テ其ノ間適當ノ差額

ヲ設ケ但シ價格變動ノ際ハ右價格ヲ亦隨時之ヲ變更スルコトヲ得

四、米糧採購資金ノ準備及貸出方法ハ米統會制定シ行政院ノ許可ヲ得テ

施行ス

五、當局及關係機關ハ概宜ニ應シ隨時米統會ノ米糧採購資金ノ調整配分

ヲ援助スルモノトス

第七 交 換 法
 一 賠償金ヲ納付スル爲メ交換金ヲ納付スルコトヲ得
 二 賠償金ノ納付ニ關シテ賠償金ノ納付スルコトヲ得

第八 舉 債 法

一 分 割 債 權 區 區 在 リテ 行政機關人等公正にシテ所管區域ナル
 二 自 由 債 權 換 債 區 區 在 リテ ハ 米 統 會 ハ 專 力 ヒル 理 財 力 者 ニ 對 シ
 三 自 由 債 權 換 債 區 區 在 リテ ハ 米 統 會 ハ 專 力 ヒル 理 財 力 者 ニ 對 シ
 三 換 債 區 區 在 リテ ハ 米 統 會 ハ 專 力 ヒル 理 財 力 者 ニ 對 シ
 四 米 統 會 ハ 專 力 ヒル 理 財 力 者 ニ 對 シ
 五 米 統 會 ハ 專 力 ヒル 理 財 力 者 ニ 對 シ
 六 米 統 會 ハ 專 力 ヒル 理 財 力 者 ニ 對 シ
 七 米 統 會 ハ 專 力 ヒル 理 財 力 者 ニ 對 シ
 八 米 統 會 ハ 專 力 ヒル 理 財 力 者 ニ 對 シ
 九 米 統 會 ハ 專 力 ヒル 理 財 力 者 ニ 對 シ
 十 米 統 會 ハ 專 力 ヒル 理 財 力 者 ニ 對 シ

第九 米 統 會 管 理 行 務 令 公 布 ノ 件

國民政府ニ於テハ民國三十三年度米統會管理方針ニ別種スル爲最高國務院
 會議ノ決議ヲ據テ九月二十七日附屬國民政府令ヲ以テ別種管理ノ件
 附屬米統會管理暫行條例一ヲ公布ヒリ國民政府令ニ依リ國民
 三十三年十一月二十五日附ヲ以テ公布ヒラレタル同令ノ條例ハ
 ヒラレタリ

第十 米 統 會 管 理 行 務 令

民國三十三年九月二十七日國民政府公布
 第一條 凡ソ左記地區(以下統制地區ト稱ス)ノ米統會(經米統會
 及米統會)ノ設置及統制ハ本條例ノ規定ニ依リ之ヲ處置ス
 一 汀陽 汀陽 松江 金山 青浦 太倉 崑山 吳縣 吳江 常熟
 蘇州 汀陽 崑山 官輿 丹陽 金壇 儀江 陽 寧 水 句容
 溧陽 江寧 江浦 揚州 高郵 揚中 泰興 靖江 如皋 南通
 海門 啟東

- 二 浙江省 蘇州府 嘉興府 湖州府
- 三 安徽省 蕪湖府 太平府 宣城府 寧國府 太平府 池州府 徽州府 廣德府 太平府 太平府 太平府
- 四 廣西 廣西
- 五 上海特別市 蘇州府 杭州府 寧波府 嘉興府 湖州府 太平府 太平府 太平府

第一條 米穀ノ收買辦法規定ハ左ノ如シ

- 一 凡ソ統制收買地區内ノ米穀生産者及所有者(地主ヲ含ム)ハ其ノ收買又ハ所有セル米穀ニ對シ自家消費ヲ除クノ外ハ米穀統制委員會(以下米統會ト略ス)ノ指定セル採辦所(以下採辦所ト略ス)ニ賣渡スヘシ
- 二 指定採辦所ヲ除ク外何人モ販賣ノ利ノ目的ヲ以テ該地區ニ於テ米穀ヲ收買スルコトヲ得ス
- 三 指定採辦所ノ採辦セル米穀ハ運力ニ當テ該米統會片區採辦所又ハ分擔所ニ運送シ米統會ノ指示アルニ非サレバ採辦所分スルコトヲ得ス

トヲ得ス

米統會ハ各指定採辦所ニ對シ採辦證明書ヲ發給スヘシ

第三條 米統會ハ行政院ニ稟請シ其ノ許可ヲ得テ統制收買地區ニ分所ヲ干ノ運送管轄トナスコトヲ得

第四條 凡ソ同一運送管轄區域内ノ米穀ハ自由運送スルコトヲ得候シ必更アルトキハ同一運送管轄區域内ノ米穀ノ運送トテ之ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第五條 凡ソ米穀ハ採辦證明書ヲ所奉スル者ノ外運送管轄區域外ヘノ運送ヲ許サズ「採辦證明書」ハ米統會ヨリ發給シ又ハ指定採辦所又ハ指定市米統會發給證明ヨリ米統會ニ請求シ其ノ許可ヲ得テ米統會ニ運送スルコトヲ得

第六條 米統會ハ統制收買地區以外ノ地區ヨリ輸入スル米穀ニ對シテハ制

照テ加ヘス

第七條 米穀の運送ニ付シテ禁止又ハ取締ルべき事項ヲ指定スルヲ得ス若シ之ニ違反セルトキハ海運警察官又ハ海軍兵隊員等ヲ派遣スルヲ得

第八條 米穀ノ合法的販賣及其ノ取締ニ付シテハ何人トモ之ヲ妨害シ引當又ハ不法ナル規程ヲ制定スルヲ得ス各該行政機關ハ海運警察官等ヲ所轄スル者ニ對シテハ之ヲ指導スルハシ米穀ヲ管轄區域ニ入スル者ハ既經検査ノ結果ニ隨シテ之ニ付與證明書ヲ提出スヘシ差シ指示スルコト能ハサルトキハ海軍兵隊員等ヲ差押フルコトヲ得

第九條 検査官ニシテ海運セル米穀ニ汚水又ハ土砂等ヲ附スルコトヲ得ス

前項ノ行為アルトキハ其ノ探知證明書ヲ取消スルコトヲ得

第十條 第二條第三條、第四條第二項又ハ第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ十萬元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得但シ貨物ヲ以テ代罰スルコトヲ得

第十一條 第二條第二項、第五條、第七條又ハ第八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ十年以下ノ懲役又ハ百萬元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

第十二條 凡ソ本條制定後ノ事實ヲ告發檢査シタルトキハ該告發者ニ對シ獎勵金ヲ付與スルコトヲ得獎勵金給與辦法ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 本條例ハ公布ノ日ヨリ又施行ス

昭和三年十一月二十五日公布施行ノ海運警察官等執行條例
 米穀の運送ニ付シテ禁止又ハ取締ルべき事項ヲ指定スルヲ得
 米穀ノ合法的販賣及其ノ取締ニ付シテハ何人トモ之ヲ妨害シ引當又ハ不法ナル規程ヲ制定スルヲ得ス各該行政機關ハ海運警察官等ヲ所轄スル者ニ對シテハ之ヲ指導スルハシ米穀ヲ管轄區域ニ入スル者ハ既經検査ノ結果ニ隨シテ之ニ付與證明書ヲ提出スヘシ差シ指示スルコト能ハサルトキハ海軍兵隊員等ヲ差押フルコトヲ得

陸軍省 海軍省 農商務省 警察廳
 兵部 大倉 常陸 山 兵江
 松江 管野 松江 金山 青島



民國三十三年十一月二十五日公布施行、蘇浙皖米穀連銷管理暫
 行條例及其、米穀改賣搬運ニ關シ公布セラレタル法令及行政
 措置、概テ本條例公布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス本條例ノ施行細則ハ
 別ニ之ヲ定ム

附表 蘇浙皖運銷管理區域

蘇州管地區	吳縣	太倉	常熟	崑山	吳江
松江管地區	松江	金山	青浦		
鉅江管地區	鉅江	揚中	丹陽	金壇	
無錫管地區	無錫	江陰	武進	錫	宜興
寧滬管地區	南浦	泰興	靖江	如皋	海門
嘉興管地區	嘉興	平湖	嘉善		
南京管地區	南京市	水	句容	江寧	江浦
蕪湖管地區	蕪湖	宣城	含山	和縣	
揚州管理局	高郵	江都	儀徵		

上海管地區 南匯 川沙 奉賢 寶山 崇明 嘉定



昭和十九年八月

極秘

北支ニ於テ之重要産業、輸送、食糧、勞務ニ關スル概況

一、重要産業
 二、輸送
 三、食糧
 四、勞務
 五、其他

在 北 京 大 使 館



文物資勳員及生産力擴充計畫ノ現状ニ付テ

北輕ノ屬張店工場建設ニ關スル件

近ノ北支炭事情

北邊土ノ現況及對策

九年度下期北支鐵道輸送力ニ關スル件

和十九及二十年米穀年度食糧需給計畫

昭和十九年度産鹽狀況

取時重要勞力緊急對策要綱

三

北支物資動員及生産力擴充計畫ノ現状ニ付テ

一、物資動員計畫

北支物資動員計畫ニ於ケル十九年度對日對滿期待ハ鋼材ニシテ夫々八九三二九噸、一五〇〇〇噸ナル處現在迄ノ入荷実績ハ九年度四月以降對日一〇二〇六、對滿一七五一噸ニシテ十九年度動員計畫ニ於テハ對日一七五五六噸（重軌條ノミ）、對滿一九二噸（重軌條）其ノ実績不良ニシテ生産力擴充計畫及輸送力影響スルコトアルハ甚大ナルモノアリ

尙經令屬關係切テ蘇北經令屬、華北經令屬、華北經令屬「アルミ」向土増産ハ十八年度十九年度配ニ依ル新規專業ナルモ資材ノ入手実績ハ頗ル不良ニシテ今日迄ニ入手セルモノハ華北經令屬六一九三噸、華北經令屬七五五六噸、今日迄ノ使用量華北經令屬約七一九三噸、華北經令屬九六八噸ニシテ其ノ大部分現地立替資材ニ依リ工事ヲ進捗セ

シメタル實狀ナル爲現地ニ於ケル他ノ重要産業ニ及ボセル影響ハ相當大ナルモノアリ

二、生産力擴充計畫

現在北支ニ於テ重點ヲ指向シソツアル産業ハ製鐵、經令屬（含鑛土）石炭、鐵道輸送ナリ其ノ概要左ノ通

(1) 製鐵

十七年ニ於テ閣議決定ニ依ル小型熔鑪三〇座、三六基、四〇座、二基及二五〇座、三基、移設高爐三八〇座、一基、六〇〇座、一基、甲小型高爐八全部（豫定）一基、増ノ三七基、二五〇座、爐二基（内一基修繕中）、三八〇座、一基、其ノ建設ヲ終了シ六〇〇座、一基建設中（二〇年一月火入豫定）、二五〇座、一基建設中止ノ狀態ナリ、尙大冶ヨリ移設ノ内五〇座、一基ハ解体輸送中ニシテ其ノ一部ハ既ニ現場ニ到着セリ

操業中ノ小規模高爐ハ、操業員ノ熱心ナル努力ニモ拘ラス其ノ成績
 概ネ芳シカラズ、其ノ原因ハ、
 (一)原料處理設備未完成及不完全等因、
 (二)附屬設備(熱風爐、掃内運搬設備等)不備、
 (三)原料ノ粗悪、
 (四)技術者及熟練工員ノ不足、
 (五)一般勞工ノ不足
 等ヲ舉ゲ得ルモ、其ノ最モ重要ナル原料處理設備及附屬設備ノ不備
 ナリトス

原料炭及燐石ノ良質ナルモノハ、擧ケテ日増ニ供給スルヲ以テ
 操業ノ原料ハ勢ヒ粗悪ナルモノ供給スルノ外ナク實狀ナリ
 シ處之ヲ精選シ良質原料トシテ高爐ニ投入スヘキ選炭設備做設
 等選炭設備ニ「カウバー」式熱風爐等十八年度ニ於ケル小型
 高爐同時對策、該炭對策ニ依リ決定セラレタル設備ハ未タ現地

ニ設備スルニ至ラス操業開始當時ノ原始的ノ野燒「コークス」
 ニ其ノ大部分依存シタル狀況ナリ出鉄量ヲ向上セシカ爲現地ニ
 於テハ緊急設備トシテ
 (一)簡易選炭機「レオ」式ニノ設置
 (二)石炭粉砕設備ノ急設
 (三)「ヒトフアイブ」爐ノ急設
 (四)原料炭及燐石ノ開採増産ニ依ル使用
 等ノ緊急手當ヲ施行シ出鉄ノ向上ニ努力中ナリ

尙公更以下關係軍官民一体トナリ製鐵事業推進ニ努メツツアリ
 又移設高爐ニ於テモ附屬設備即チ原料處理設備(選炭設備、
 爐、瓦斯設備、運搬設備等)ノ未完成ナルモノアリテ出鉄未タ
 向上セサル限アリ

次ニ技術員及熟練工員ノ不足ハ各製鐵所共同シキモノアリ
 工員ノ指導不況高爐ノ緊急處置ニ缺クル所大ナルモノアリ



延イテハ世々貴族下ニ及ボク影響大ナルモノアルニ付内情ヨリ
多岐購用ヲ急遽ニ覚悟スルノ要アリ(詳細別記)

出給量増加ノ爲ニハ選ニ原料産地設備ヲ完備シ良質ナル原料ヲ
高價ニ採入スルト共ニ必要者及設備工員ヲ補充スル所アリ

高價ニ採入スルト共ニ必要者及設備工員ヲ補充スル所アリ
ノアリ、之ヲ納付遅延ハ本高價完備産地ニテ多分ニアルヲ
以テ今次遊休トナルヘキ高價ノ時購用ヲ急遽ニ覚悟ス
ルノ要アリト認ム

(四) 石 炭

専ラ原料炭ニ重點ヲ指向シ露中開採、中興、井選、新泰等ノ礦
結核ノ炭價ニ主力ヲ注シ日漸及現期製鐵ノ原料確保ニ邁進シツ
ツアリ

然ル處本年ニ於テハ農繁期以降勞工ノ不足著シキモノアリ山元
發送及輸送ノ不環ト相俟テ出炭意ノ如クナラス、計費ニ比シ下

運ル不取價ヲ示シアルハ遺憾ナリ(全額ニテ六九%原料炭ニ於
テハ七九%ノ取價ナリ)従來北支ニ於ケル勞工ハ餘剰多分ニシ

テ、今夏ハ勞工ノ不足ト云フ状態ナリシニ現下ノ状況ヨリ推察スル
ニ今夏ハ勞工ノ不足ト云フ状態ナリシニ現下ノ状況ヨリ推察スル

(五) 鐵 石

組織變質ノ補充ニ伴ヒ鐵礦石ノ開發ヲ進行シ優良礦ノ確保ニ努
メ現ニ武安ノ開發利國ノ増産ニ努メ所望ノ確保ノ見込シツキタ
ルニ至リテ類ノ人手遅延シツツアルモノ相當アリ

(六) 鑛 業

鑛業令廢除店工場ハ最重點産業トシテ本年初頭ヨリ推進中ナ
リ、現在工事ノ進捗度ハ概略三四%程度ナルモ今後更ニ拍車ヲ
カケ鑛成工場ハ十月迄ニ其前ハ十月迄ニ現地工事ヲ完成シ所
定ノ「アルミナ」生産ノ確保ヲ計ラントス



之ヲ爲前送ノ消費材ノ入手意ノ如クナラス工率遅延ノ虞大ナル
モノアリ、就中對日期待ノ土建用資材前ニ發註中ノ機械類ハ完
滿期日遅延ノ公算大ナリ、華北鑛土鑛業ノ「アルミナ」向鑛土
鑛業ノ輸入運送積込等ノ設備ハ現地資材ノ立替ニ於テ概未完了
セルモ山内田邊場繼小型鑛車鑛車等ノ人手遅延シアリ

(三) 鑛産

現地「アルミナ」生産ニ對シ原料田専運、灰ノ増産計ランカ水
利化學ニ對シ第一期ニ〇%増産策ニ對シ〇%増産計畫ヲ樹立
シ鑛業ノ増設資材ノ供給等要望シテ先未タ現地到着ノ運送ニ
至ラズ此クテハ華北鑛業工場完成スルモ其ノ主タル副原料曹
鑛灰ノ増産之ニ伴ハサルトハ專運「タリシカ」燒成不可能
トナリ「アルミナ」生産ハ期待シ得ズ

(四) 鐵道輸送

鐵道輸送ニ依リ鐵道輸送量及噸數ヲ増大ニ對シ施設ノ増強輸

送資材ノ増産ニ努カテ爾注シツアルモ資材ノ入手難ノ爲所期
ノ輸送力ヲ確保スルヲ俾サルニシテ前年度程度ノ輸送
量トナル處アルヲ以テ車輛運用効率ノ向上貨車滞留時間ノ短縮
等ニ依リ努力輸送力ノ確保ニ努力中ナリ

(五) 坑木

坑木 本年度對滿期待三九三萬噸中八月十五日迄ノ入荷実績六
〇四千噸、對日期待二一〇千噸中三三三三噸ナリ
坑木 十九年度對滿二七三萬噸、對朝二四〇千噸、對日六〇
〇千噸中入荷実績二五三萬噸、對朝二四〇千噸、對日六八千
石、八月十五日現在何レモ十八年度對滿越ラズムニシテ
入荷実績良好トハ云ヒ難シ

(六) 技術指導

(七) 機械工業

關口博士一行七名六月二十一日北京着各地區ノ視察ヲ終了シ結



（案）ヲ提出ノ上八月六日上海ニ向テ出發セリ
當方ニ於ケル右ニ業キ機械工業將備欲制ラ立手配中

（製）機

日 韓 由 船 運 七 月 十 二 日 來 蘇 各 製 所 視 察 中 ナリ 當 方 興 望 ノ 切
一 名 ニ 對 シ テ 各 ノ 國 容 ハ 遠 ク 及 ハ 又 充 分 期 待 シ 得 サ ル モ ノ ト 認

（運）送

ノ 未 々 輸 送 者 ノ 條 々 ノ 運 送 事 宜

E-0042

0009

華北輕金屬張店工場建設ニ關スル件 (一九八一八)

一、現地ニ於ケル工場建設ハ内地發註機器類ノ遅延、鋼材、木材等資材ノ入手難等モモ拘ラス、現地資材ノ立替使用(既ニ鋼材四千瓩弱ヲ立替使用セリ)及各地遊休機器類ノ移設等ニ依リ極力第一期工事(「ブルミナ」三萬瓩能力)完成期タル本年九月未キ目途ニ建設中ニシテ、七月以降ヲ挺身期間トシ(1)勞工ノ増員(2)請負者ノ増加(3)生必物資ノ特配(4)徵用邦人ノ派遣監督(5)夜間作業ノ擴張等ニヨリ現地軍ノ全幅的協力ト相俟テ突貫工事ヲ續行シツツアリ

二、内地發註機器類ノ製作ニ關シテハ本省、軍需省、各「メーカー」等ノ協力、特ニ過般現地ヨリ運送セル銑鐵現物ノ關係「メーカー」ニ對スル支給ニヨリ六月上旬頃ヨリ全般的ニ進捗セルヲ認ムルモ概シテ言ハハ現状ヲ以テシテハ本年中ノ完成極メテ困難ニシテ更ニ一級ノ督勵ヲ要ス遲延セル主ナルモノノ現況ハ左ノ通

(1) 眞空蒸發機 六機 月島機械 八二臺來年二月、四臺同四月

(2) 造粒機 四臺 東洋機械 一臺十月、二臺十二月、一臺一月

(3) 冷却機 四臺 同 右 一臺九月、二臺十二月、一臺一月

(4) 「ターボ・ブロー」三三臺 荏原製作所 三臺十月、四臺十一月、四臺十二月、一臺一月

(5) 「ラジエーター」二臺 栗本鐵工所 十月、十一月各一臺

(6) 「ブレイキ・クラツシヤ」二臺 同 右 十月、二月 各一臺

(7) 「ボイラー」二機 石川島芝浦タービン 十二月

(8) 汽機給水ポンプ用「タービン」 同 納期未定

(9) 送風機排風機類 村上製作所 十月、十一月

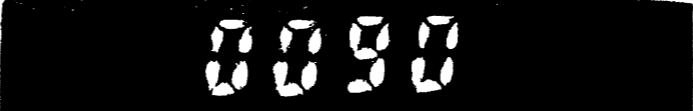
(10) 齒車、減速機類 島津製作所 一部十月、殘部一月

(11) 「モーター」類 東京芝浦、三菱電氣、安川電氣

一〇〇馬力以下ノ汎用「モーター」ハ八月中ニ大體入手シ得ルモ

四〇〇馬力等ノ大モノニ付テハ更ニ督勵ヲ要ス

三仍テ差當リ焼成工場ノミニテモ大體豫定期ニハ運轉シ得ル様措置



ルモノトシ「クリンカー」製造ヲ第一段階トシ右ニ所要ノ左ノ機器類ノ完成ニ付特ニ強力推進セシムルコトニ大東亞省、軍需省トモ打合セテ爲セリ

- (1)「ジャイロトリ」・「クラウシヤ」(東京建設事務所)大月定期ヲ更ニ確實ニラシム
- (2)造粒機 東洋機械 一臺十月納期ヲ更ニ繰上テ努力セシム
- (3)冷却機 同 右 一臺九月納期ヲ更ニ繰上テ努力セシム

而シテ之等機器振付ニ至ル十月中心ニ於テハ「クラウシヤ」ハ手割ニヨリ、造粒機ハ之ヲ省略シ又冷却機ハ別途工夫シ運轉開始ヲ行フ方針ナリ

四 第二期工事(「アルミ」)ニ關シテ高純能力追加シ「備」中央ヨリハ第一期工事ノ移落付キ次第直チニ着工方要望サレ居ルカ其ノ所要資材ニ關シテハ「備」二期工事ノ場合ニ於ケルカ如キ現地立替可能ノモノ少キ事情ニモ鑑ミ之カ見送シ付特ニ中央當局ノ意見承知シ度シ即

千全工事所要鋼材約二〇〇〇〇トン

(一)内陸側(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(二)外海側(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(三)現地立替及借受 鋼材 八〇〇〇トン

(四)所要機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(五)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(六)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(七)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(八)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(九)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(十)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(十一)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(十二)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(十三)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(十四)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(十五)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(十六)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(十七)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(十八)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(十九)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(二十)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(二十一)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(二十二)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(二十三)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン

(二十四)現地立替機軸(内地) 鋼材 六〇〇〇トン



最近ノ北支炭事情

(昭一九八六
在北京大使館)

一、昭和十九年度出炭計畫及對策

昭和十九年度生産計畫ハ粘結炭一六三七〇千吨有煙非粘五〇〇〇千吨、無煙炭四五二〇千吨計二五八九〇千吨ナリ、右ハ粘結炭ノ對目、對滿向ハ勿論地場製鐵ノ増設ニ伴ヒ之ニ要スル原料炭ノ絕對確保ヲ企圖シタルノミナラス有煙非粘及無煙炭ヲ増産シ中支向炭ノ確保並ニ地區内民需炭ノ増産ニ依ル民生ノ安定、炭、木、パクター等ニ依ル枕木、坑木取得地區内産業ノ發展ヲ考慮シタルモノナリ、然ルニ資材勞務輸送等ノ關係並ニ日滿ノ要求ヲ考慮シ原料炭ヲ最重要トシ他炭種ニ付テハ減産モ並不已得トナスノ事情ニ立到レリ

北支炭ノ生産狀況ハ年度頭初ニ於テハ一―三月ノ増産期間ノ後

ヲ承ケ突賣出炭ヲ繼續シソノ成績良好ナリシモ五月以降農村ノ大製作ニ關聯シ歸農工人極メテ多ク更ニ中共工作ノ浸透、傳染病ノ流行アリ工人ノ能率低下シタルヲ以テ左記ノ諸對策ヲ強力ニ實施シタルニモ不拘ソノ浸透未熟ナリシヲ以テ生産低下ノ一途ヲ迎リタルニヨリ更ニ施策ヲ強化セシムル爲メノ努力ナル支授ヲ得ルコトトナリ、之カ效果ハ農繁期ノ終了ト相俟チテ着々現ハルルモノト確信シアリ、日滿向原料炭々積出炭實績表參照

北支炭出炭實績表參照

即生産量ノ確保ノ爲六月十五日ヨリ三ヶ月間ヲ増産期間トシ獎勵金ヲ交付シ一層貯炭ノ増高ヲ企圖シ極力増産ニ努メアルモ開發資材ハ年々壓縮サレタルヲ以テ各炭礦ノ機械化意ノ如クナラス勞工ノ勞働力ニ俟ツモノ大ナルヲ以テ食糧ノ増配、生必物資ノ特配、賃銀ノ値上宿舍ノ増設改善等極力勞務管理ノ改善ヲ計リ勞工取得ニ努メタルモ炭礦ノ自體募集ニハ限度アルヲ以テ行政供出ヲモ實施シ勞工確保ノ萬全ヲ期シアリ。

尙非常時局對策トシテハ

- (1) 生産獎勵ノ爲メ貯炭買取ノ實施
 - (2) 警備防空施設ノ強化
 - (3) 近接炭礦隣組ノ結成ニ依ル復舊等ノ相互援助
 - (4) 現地兵團ヲ中心トスル推進委員會ノ設立
 - (5) 生必組合ノ設立
 - (6) 善隣工作ノ強化
- 等極力出炭確保ニ努力シアリ
- 本年四月大東亞次官ノ視察アリ六月藤原國務大臣ノ視察アリ中
 央、現地協力シ生産隘路打掃ノ爲メ分擔ヲ明各チラシメ生産
 確保ニ全力ヲ傾倒シアリ現地要指置部項中單獨ニ處理シ得ヘキ
 モノハ適當商研ヲ明確ニシ着々解決ヲナシテ、特ニ促進サレ
 タル事項ハ次ノ如シ(一)坑木現地取得ハ着々入手シテ(二)勞務ノ
 充足ハ行政供出ニヨリテ行ヒ(三)非常時對策等ハ炭礦相互ノ協力

體制ヲ確立セリ、尙露澤紅密坑ノ水洗機ハ豫定通り試運轉ヲ行
 ヒ南洋、朝鮮坑木ハ一部入手シテ、尙現地炭礦ノ増産ヲ爲サ
 シムル爲重要炭礦ノ増産ハ年間更ニ左記ノ如ク實施スルコトト
 セリ

馬	五〇〇千噸
井	一〇〇〇
正	五〇〇
華	一〇〇〇
新	五〇〇

其他ノ施策ニ關シテモ着々促進シアルモ諸費用資材、炭價等概
 ネ中央ノ協力ヲ要スルモノ多シ

ニ輸移出狀況

輸送力ニ付テハ鐵道匪害及事故ノ頻發、特殊輸送等ノ影響アリ
 タルヲ以テ山元發送著シク低下シ、山元貯炭ノ増加ヲ見タリ。



然レトモ輸出同炭ノ計畫完遂ヲ計ル高評炭ノ輸出其他銑煮山
元發悉テ奮勵セリ

將ニ中興、薄黒山等主安炭ニ對シテハ實日漸同英給ニ支障ナカ
ラシムルヘク港頭貯炭ノ増減ヲ企圖シ、七月中旬ヨリ増産期
ヲ設定シ總ニ突貫對策ヲ講シタリ、其ノ結果七月末ニ於ケル
港頭貯炭ハ六月末ニ比シ六三千噸ノ増加ヲ示シタリ
尙各埠向別ノ狀況左記ノ通りナリ

1 對日 向

歸來、磁廠、薄黒山、新泰炭ノ海陸積取増加及湯泉炭ノ配給
順調ニヨリ右ノ實績良好ナリシモ、井陘、正豐炭ニ付テハ積
取不良等一般の運送事情不良ニ因ル配給豫定變更等アリテ積
取實績低下シ全体(含朝鮮同)ニ於テ八四%ノ實績ナリ

2 對 備 向

歸來、井陘、正豐、中興炭ノ製鐵原料炭及湯泉炭ノ増産ニ努

力シタルモ輸送事情ノ不良ナリシ爲全体ニ於テ八四%ノ成績
ナリ

3 對中南支向

中支石炭ノ逼迫事情ニ鑑ミ陸送實績ノ不振ヲ多少ナリトモ補
填スル爲海送及通河輸送等極力計畫輸送量ノ完遂ニ努力セル
モ鐵道運故ノ頻發ニヨリ實績著シク低下シ僅ニ五四%ニ達ス
ルニ過キス

仕向先別輸移出實績表別表ノ補



1 仕向先別輸出実績表

炭名	四月一七月		比	備考
	計	実績		
瀧	四七七	四四九	九五	
井陘、正豊	三〇	一九	六三	配船減
易泉	五七六	七三	九六	
砥縣	一三	一六	一二三	
中興	四五八	三〇〇	六六	工人不足ニ因リ積込不良及貨車廻入不足
博黒山	六	七二	一二二	
新泰	一	一〇	一〇〇	配船減
大河	一、二八	九四四	一〇〇	
計	一、二八	九四四	八四	
大同	六〇	四六	七七	陸送不良ニ依ル
合計	一、一八八	九九〇	八四	

(單位千吨)

2 對滿向

炭名	四月一七月		比	備考
	計	実績		
瀧	四二八	三八三	九〇	
井陘、正豊	八五	八九	一〇五	
易泉	四六	四九	一〇六	
中興	二三九	二〇四	八六	
新泰	六一	五三	八七	
博黒山	七一	一		輸送事情ニ因リ輸送計畫削除
計	九三〇	七七八	八四	
大同	六七	五八	八七	
合計	九九七	八三六	八四	

3 對中南支移出

炭名	四月一七月計	四月一七月實續	比率	備考
開鑿	六六	一		
柳泉	七六	四三	五七	輸送事情ニ因リ輸送計畫削除 山元變送不良
中興	二八	二四	八六	
磯縣	二八	三	一七	輸送事情ニ因ル
大汝口	九八	六二	六三	
新泰	一五	四	二七	輸送計畫削減
山泉	三六一	二七六	七七	
陽泉	一四	四	二九	輸送事情ニ因ル
焦作	一一〇	一七	一六	輸送事情ニ因リ發送不能
計	七八六	四三三	五五	
大同	一八	一〇	五六	
合計	八〇四	四四三	五四	

(單位千噸)

日滿向原料炭炭礦出炭實續表 (單位千噸)

炭礦名	四月一七月計	四月一七月實續	比率	八月上旬計	八月上旬實續	比率
開鑿	二一三二	一八七二	八八	二〇〇	一四九	七
中興	九二七	六三七	六九	七八	五六	七
井陘	二八二	二八二	一〇〇	二四	一八	七
正豐	一四〇	一四七	一〇三	一二	一四	一一
博黑山	四一四	二八四	六八	三二	二五	七



北支炭出炭實績表（炭種別）

炭種別	四月一七月		七月一十月		比率	八月上旬		八月下旬		比率
	計	實	計	實		計	實	計	實	
粘結炭	五〇〇一	三九二七	四三七	三〇九	七九	一一九	六〇	七一		
非粘有煙	一五五四	八二九	一一四	五二	五四	一一四	五二	五一		
無煙炭	一三九四	七六七	一一四	五二	五五	一一四	五二	四四		
計	七九四九	五五二三	六七〇	四二一	六九	六七〇	四二一	六三		

華北鑛土ノ現況及對策

(昭一九八一七
北京大使館)

一 昭和十九年度生産計畫

昭和十九年度ニ於ケルアルミナ向鑛土頁岩供給計畫ハ、自方事情ノ變更ニ伴ヒ昭和十八年十二月五日五三〇千噸現地二〇千噸計五五〇千噸ト決定シ所要機器資材ハ昭和十九年三月末迄ニ入手スル線定ヲ以テ踏破ノ計畫ヲ實施シ來タレリ之カ爲南定炭礦、大陸鑛業ヲ休業セシメ其ノ資材ハ鑛土會社ニテ使却可能ノ分ハ可及的之ヲ轉用シ探掘ヲナシ來タレリ、尙昭和十八年一―三月ノ増産分アリタルヲ以テ資材入手遅レタルモ手掘ヲ強化シ山卸ハ馬車小車ニ依リ對日供給分ハ船ニ支障ナカラシメタリ(生産及供給実績表參照)

明年度ヨリアルミナ向原料ヲ全面的ニ鑛土頁岩ニ依存スル傾向アリ、本年度下期ヨリ平均毎月一萬噸探掘ヲ目標トシテ目下之カ實施計畫立案中ナリ

本年四月大東亞次官ノ視察ニ依リ現地中央ノ處理事項ヲ分擔シ推進シアリ、其ノ狀況概ネ次ノ如シ

(一) 對日期待機器

内地發註資材機器類ハ中央ノ強力ナル推進ニモ不係尙入手狀況左ノ如クナルヲ以テ更ニ特段ノ斡旋ヲ要ス

(二) 普通鑛々材(素材)入手狀況

要量數量四、八〇〇噸ニ對シ昭和十八年三月末迄ニ手當済ミノモノ一、三七五噸ニシテ四月以降復活シタルモノ土建用七〇〇噸、織破類二八七噸製品一二八噸、總計二、四九〇噸ニシテ殘二、三一〇噸ノ復活現物化ヲ要ス

(三) 入手済機器(於現地)

軌條(五〇町)

九三一三二

一七〇一〇〇

三四八五

(三二)

七〇〇三

(一五)

一五九〇

ポルトナット (三二)

六〇〇〇本

ツルハシ

五〇〇丁

コンプレックス (一〇〇馬力)

二臺 (山形野山
引籠用)

同上

二臺 (同上)

(イ) 小型投函車

立上り工業分二臺ハ海軍委託分ヨリ富士電機ニ分譲スルニト

ニ決定八月五日入手同月甲種検査ノ豫定

若松車輪ニ委託分一〇臺ニ付キテハ未タ現物化セズ車ヨリ借

用スルニ付トナリ五臺ヲ元月中旬天津ニ送揚シ富士電機ニ貸

與スルニ付トナレリ

(ロ) 其他ノ機器類ノ手続状況

馬車

若松車輪 發註ニ付〇臺中一〇〇臺八月入手豫定

岩崎レール 發註ニ付〇〇臺ニ付シ現物化中

小林工作所 四〇〇臺ニ付シ現物化中

丸港揚機 金剛機械 現物化

丸港揚機 東洋工業 八二臺中一〇〇臺ヲ引取済

丸港揚機 日立製作 製品引取済中

丸港揚機 小島電機 現物化セズ發註先變更ノ要ナルヲ電氣

統ト協議中

右ノ如ク謝日期待發註機ニ關シテハ最近電氣省材料費物ヲ入

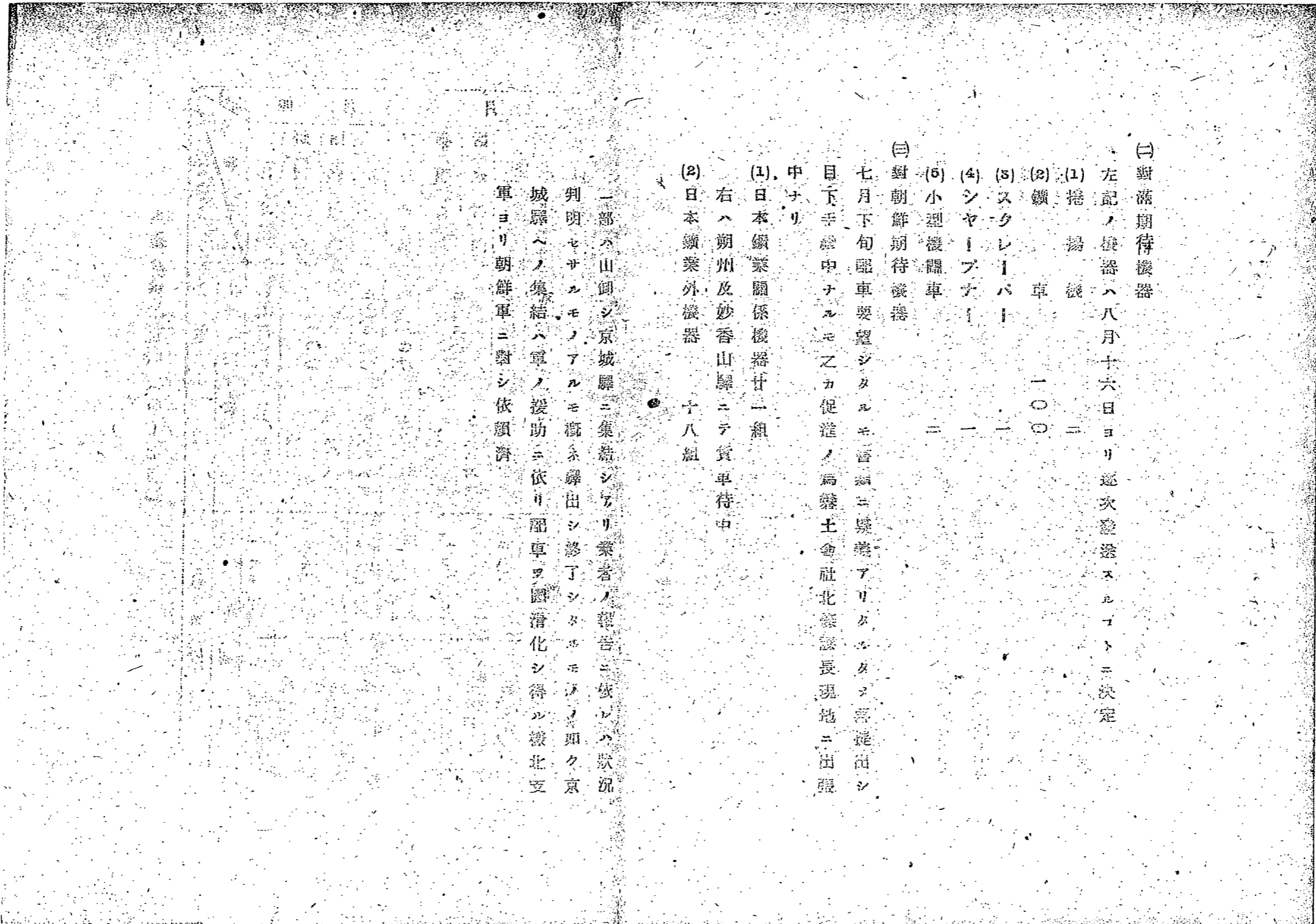
手シタルカ又ハ未タ入手セザル状況ニシテ之カ製造督勵ニ付

キテハ中央ニ於テ特段ノ斡旋ヲ要ス

(四) 日本機業ノ富士電機ニ關スル協力

技術員検査員等日本機業ヨリ富士電機ニ對シテハ協力ヲ要ス

定數ニ強化スルヲ要アリ



(一) 對滿期待機器

左記ノ機器ハ八月十六日ヨリ逐次發送スルコトニ決定

- (1) 捲揚機 二
- (2) 鑽車 一〇〇
- (3) スタレーバ 一
- (4) シヤープナイ 一
- (5) 小型機關車 二

(二) 對朝鮮期待機器

七月下旬電車要望シタルモ蓄積ニ興業アリタルヲ以テ運送出シ
目下手続中ナルモ之カ促進ノ爲韓土會社北滿部長現地ニ出張
中ナリ

- (1) 日本鑛業關係機器廿一組
右ハ朔州及妙香山驛ニテ貨車待中
- (2) 日本鑛業外機器 十八組

一部ハ山御シ京城驛ニ集結シテリ業者ノ報告ニ依レハ狀況
判明セサルモノアルモ概々驛出シ終了シタルモノアリ
城驛ヘノ集結ハ軍ノ援助ニ依リ電車ヲ圓滑化シ得ル據北支
軍ヨリ朝鮮軍ニ對シ依頼済



生産及供給実績（四月～七月）

月別	四月		五月		六月		七月	
	計	別	計	別	計	別	計	別
生産	計	別	計	別	計	別	計	別
生産	45,300	アルミ同	48,100	アルミ同	51,700	アルミ同	53,000	アルミ同
生産	25,100	研磨材同	27,400	研磨材同	35,500	研磨材同	33,000	研磨材同
生産	20,200	耐火材同	22,591	耐火材同	19,807	耐火材同	20,000	耐火材同
供給	計	別	計	別	計	別	計	別
供給	11,790	アルミ同	14,790	アルミ同	15,000	アルミ同	17,000	アルミ同
供給	1,650	研磨材同	1,500	研磨材同	1,483	研磨材同	1,700	研磨材同
供給	411	耐火材同	1,500	耐火材同	1,483	耐火材同	1,700	耐火材同
供給	1,188	計	2,679	計	2,915	計	3,300	計
供給	1,288	計	2,679	計	2,915	計	3,300	計
供給	3,091	計	4,746	計	5,691	計	6,000	計
供給	2,284	計	2,591	計	1,980	計	2,000	計
供給	703	計	703	計	703	計	703	計
供給	2,388	計	2,388	計	2,388	計	2,388	計
供給	2,124	計	2,124	計	2,124	計	2,124	計
供給	2,913	計	2,913	計	2,913	計	2,913	計
供給	4,658	計	4,658	計	4,658	計	4,658	計
供給	7,390	計	7,390	計	7,390	計	7,390	計

註 年頭初貯蔵左ノ如シ（三月末現在）

山元貯蔵

海頭貯蔵

合

計

アルミ同	95,305	16,203	111,507
研磨材同	6,081	67	6,148
耐火材同	17,434	1,683	19,117
計	118,820	17,953	136,773

華北鹽土生産實績旬報(八月下旬)

項目	冀		京		冀		計
	山元	山元	山元	山元	山元	山元	
採掘量	120	311	168	313	168	313	1,299
山元貯蔵	1	168	68	129	129	129	881
山元貯蔵	433	2,631	2,608	1,389	1,389	1,389	7,560
貨車積	36	1,360	1,360	1,360	1,360	1,360	4,083
庫貯積	2,076	1,340	1,340	1,340	1,340	1,340	7,026
港受入	8	1,470	1,470	1,470	1,470	1,470	4,073
積	180	483	483	483	483	483	663
港貯積	77	1,464	1,464	1,464	1,464	1,464	2,803
次旬見出	1	1	1	1	1	1	590
計							

(單位 噸)

生産實績旬報(八月下旬)

(華北鹽土) (單位 噸)

項目	青		冀		山		計
	山元	山元	山元	山元	山元	山元	
採掘量	371	555	371	555	371	555	1,267
山元貯蔵	223	371	371	555	371	555	1,171
山元貯蔵	366	433	433	555	433	555	1,012
貨車積	163	416	416	555	416	555	961
庫貯積	223	223	223	223	223	223	1,460
港受入	163	416	416	416	416	416	916
船積	1	103	103	103	103	103	1,387
港貯積	66	103	103	103	103	103	3,463
次旬見出	480	380	380	380	380	380	1,060
計							

十八、十九年度資材手當狀況表

項目	數量	差引殘	備 考
奇、靈、粹	四八〇〇〇〇〇	四八〇〇〇〇〇	昭和十八年度割當
十八年内現物化	一三七五九九九	三四二四〇〇一	
十九年度復活			
土 建 用	七〇〇〇〇〇		(東京電報八月十三日)
機 械 用	二八七〇〇〇		
二 次 製 品	一三二八〇〇〇		(東京電報八月十八日)
計	一三二八〇〇〇	三三〇九〇〇一	
十九年度三、四半期	一〇〇〇〇〇〇	二二〇九〇〇一	示手當分



十九年度下期北支鐵道輸送力ニ關スル件

一九八二〇

一、當初計畫本年度現有輸送力四一八三〇ニ對シ對日向石炭確保ノタメ中央ニ於テ補充手配スベキ輸送力一六〇五ヲ加ヘ合計四三四三五ヲ一應本年度目標トシテ實施中ノ應過般陸原大臣視察ニ基ク中央側要請タル現地製鐵及原料ノ増加、輸移出炭ノ増加、對日鑛土頁岩、鐵鑛石及燐鑛石ノ増送等ヲ加算スルトキハ十九年度改訂輸送量ハ四八五〇〇ニ達スル狀況ニアリ

二、當方ハ右要請量ヲ充足スベク輸送力ヲ檢討セル所華北ニ於ケル現況ハ治安、匪狀ノ惡化、資材難ニ基ク施設ノ脆弱及從專員ノ素質低下ニ因ル專故増加ノ傾向等アリテ右諸狀況及最近ノ實績等ヲ綜合勘案スルトキハ下期ニ於テ施設及輸轉資材ノ緊急措置ヲ講ジタル上發揮シ得ル増加輸送力ハ約一〇〇〇即チ四四四三五ヲ以テ最高能力ト推算セラル

三、從テ前項四四四三五ヲ本年度實行可能輸送力トシ上半期推定實績ヲ控除スルトキハ下期輸送力ハ二三七四二ナリ

内譯左ノ如シ

(イ)石炭 一、一五〇〇 (地場六八九四) 輸移出四六〇六)

(ロ)其他物資 一、三二四二

(ハ)輸移出炭ノ振分次ノ如シ

	下期計畫	年間ベース	上期推定實績
對日	一、九〇七	三三三三	(一、四一六)
朝鮮	四四六	八〇〇	(三五四)
滿洲	一、三四一	二八〇〇	(一、四五九)
中支	九一二	一、八六〇	(九四八)
計	四、六〇六	八、七八三	(四、一七七)

四、右下期輸送力確保ニ關シテハ左記事項急速ニ措置ヲ要ス

(1)既定計畫ノ外津浦線京漢線ニ於ケル信號場十數ヶ所増設、給水施

設入増加、通信施設ノ保持強化

(2) 既定計畫中津浦線、京山線關係増強施設ヲ極力繰上施行シ遅クモ十一月末迄ニ完成セシムルコト

(3) 之ヲ所要資材中物動鋼材及枕木ニ付早期確實入手ヲ要ス

所要鋼材二六六四〇噸ノ内入手済三、四〇〇噸不足分二、三、二四〇噸
所要枕木三九〇〇千丁ノ内入手済二、七〇千丁不足分三、六三〇千丁

ナリ

鋼材ノ關シテハ増加分ノ一部ニ付撤去轉用方目下當方ニテ研究中

ナルモ枕木ハ中央手配百萬丁ノ内五〇萬丁ハ九月中ニ入手ノ如ク

措置ノ上

(4) 所要車輛左ノ如シ

第三四半期

第四四半期

機、關、車 一八〇

二二〇

貨 車 三〇〇〇

四二〇〇

